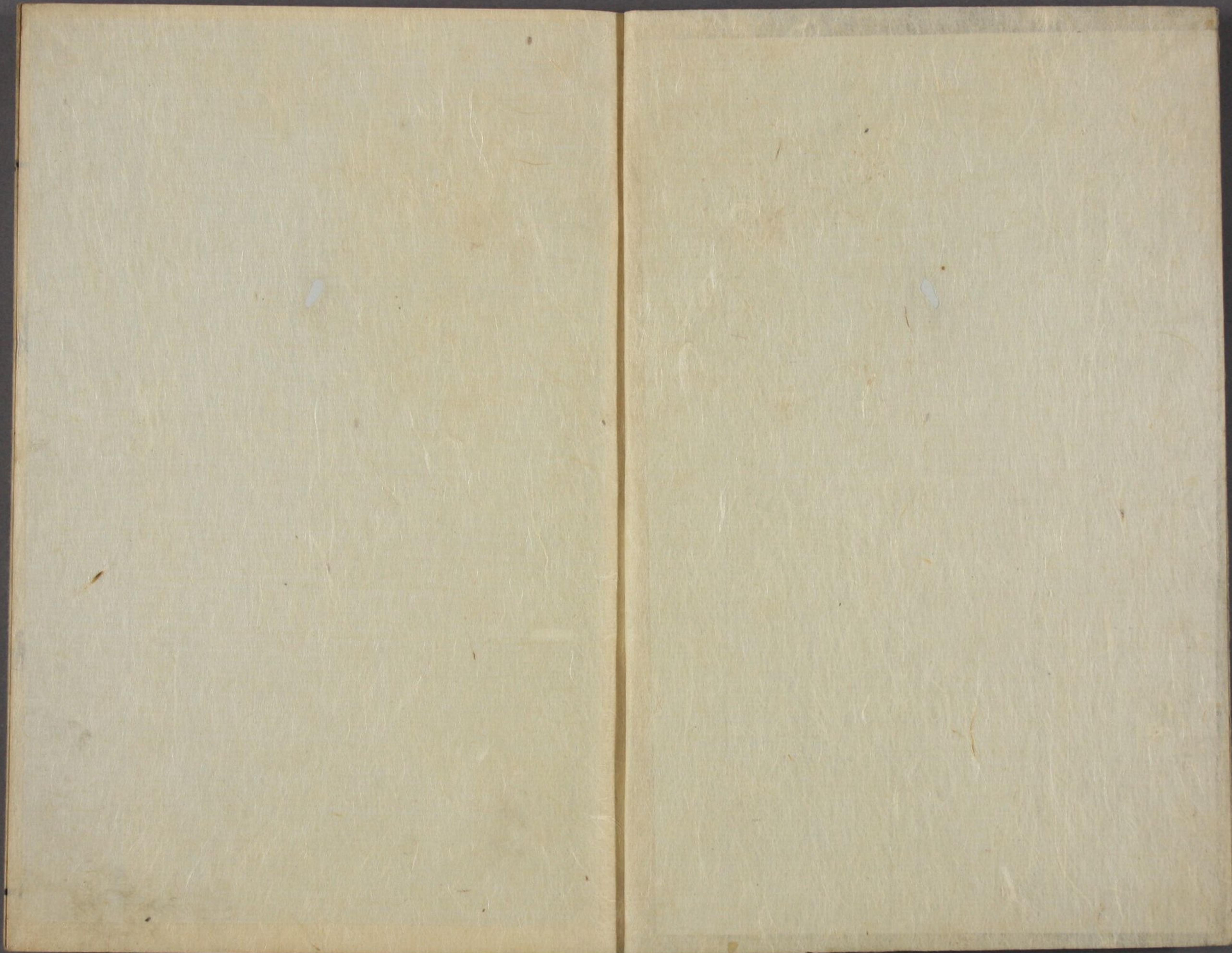


古今集事鏡

一

7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7



卷之三

卷之二

卷之三

草山

卷之三

このをうちおのとやくもひやしらふ
けのものしづわのまことの糸の
よのえ釋のうめらじらがまくわ
いふくくくくくらはるくわく
くらのうくくふまの名のむくひのとく
うくくくくく、まときのうのせのくらふを
うの糸紙、アのせのじつ、の人のうくふ

じ、うひてす、じやふるのあくのうか
「ふくくいのいきりはくふとく」
うかくはふゆきこの達のうしゆも
かうらのくのうへきらはくまのかの
せのくろく代のうまとものうふとくえ
くのくわくわくのうふとくはくうしき
よのくかくとものうふとくくらせく

かくのふとくはくうしきよ
うくわくのうふとくはくうしきのうの
えくわくをくわくのうとくせくはくうの
み代くわくをくわくのうとくせくはくう
のうのうのうのうのうのうのうのうのうの
ふくくわくはくうハ本物のうのう

古今集述続

まほゆるうれしこもよもよかぐみ

いそばやにみのりもくらふ

此書ハ古今集也アリと云。ソシテイカサノ信徳小譯セ

ス。此集ハ、小物トモナリトモナリ。ちうたうも

のあまき。之をもとて、今まくらむ。今まくらむ。ハ、

ウナギハ、アリ。ナメクジトモナリ。ナメクジトモナリ。

シロクモアリ。アリ。ナメクジ。ほのうふ。アリ。アリ。ア

リ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。ア

リ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。ア

とおもむかはまうく。傍のあややうがくよしとやうふ。傍にさせくよし
う。まみはふくよきうて。いふつよまふぬーとくをかむ。へだて
の耳。ハナヅクリーうとば。ちうてそぞせまきか。わらわれべくも
あくざめのば。まうきめが。とくよかきの河。うて。うつーるに
きいふよかきも。うめぬ。とて。うづうづかうつらまく。枝よ
しちもじみじき。下葉は色の、まうじき。うで。のまうぬたく。尼
えむきて。軽近きをめうゑあふ。こ。おききだらむ。うづらむぞか
みるゆふわくじや。へけまき代乃ちね葉の。うきゆき。あきらむ
を。やまくちく。まほの色あうつして。見えぬ。わくこのめが。你
のくろひふうね。む地をや。がくて。此事のあと。尾張の横井。か秋

ゆーせ。もくじり。あひもくもくもくもくもくもく。もくひく。うき
て。ハ音。な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。
えーと。もくさだ。あくと。め。年。ゆ。く。い。あ。く。と。も。く。あ。く。く。く。
ゑ。あ。あ。あ。う。に。思。ひ。あ。う。て。う。く。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。
ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。
ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。
○。う。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。ゆ。く。
ふ。も。お。の。あ。う。う。ひ。を。甘。一。か。し。と。く。乃。か。る。ば。す。く。ゆ。く。ゆ。く。

てハ猪もトキもモテテ梅だ。ちる御今おのがんみあがどハさと
アミえぐておうきを。さとじどくか譯ウツトモハ。トドアミブロサ田布
シテ物の味を。シブリおきて。おまうグヂミヤビヨト。いすへ乃雅言
シテ。おのうがちくね肉乃ねうなとハ。一とくめ此ようがくぬぐへ乃。
こよねくねくふえくあーとあやまざか。

○俗サトビコトニハ。かのほこの里と。あくゆとおやきがゆにも。みやびミヤビと
ちくきチクキも。うきどとが。とくのぬきおきおきと。だらうゆくと。よととある
よとくヨトク。かくカクは。とくふうりうりひぐ。あくゆと。よとくヨトク。り
酒サケと。うつと。べきと。し。とく。一とく。おのうと。えりまつぐまつ
て。なべくねくふえく。

○俗語サトビコトハ。さあくねくね。あくゆ。うきと。よととある。又。しゆと。とく。
とくのいまと。まくと。おど。とく。とく。ベー。ス。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

シハとソアベキビ。ワレヤ。モミハをソレヤ。モレモスレヤ。トソアトギヒ。又モ
ヤアガシのやアガモ。ソシナコニナトソア。アラバタリバタリバタリ。ガモ。モモチムテナ
ラタラ。タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタ
タタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタ
タタタタタタタタ
タタタタタタタ
タタタタタタ
タタタタタ
タタタタ
タタタ
タタ
タ

○もべて人の徳ハ。ほじくよも。ひまつまひふと。うじて。ほくも瀆
くも。をうくもうくもあらむ。よざかて。さへとあふのうやうを。う
ふ。うち生くる。能うる物。うふ。まの御乃。はおひひまわひ、ハ
く。か耳みき。うして。うそんが。きと。ハ。御のやうびよく。うぢ。ひく。
よみ人の心を。あくもうれて。まのいきもひを。擇。たべきし。とく。ばま

まくはりへまぐらう。いつせらうめ。寝のたす。へ、
へ、くと。おもむきはく。まくかおのがくらう。
ぞ。此下向む。ももくていつ。ゆうと。まくそそをかく。か
まくまくへぎ。まくとよ善。まくとよ。わくとよ。花をし
かふとよ。ひづく。あう。まくへてさるべ！

ふりあり。又雅ミヤビゴトハ一つあるが。さしごて二つ三つある。飛ヒコト
も行ハシムゆる。むくらサトヒゴト。宿スル。とあるもかく。あもこう。うつむく。うつ。二つ
言ウシコトハの運ハラフ。かく。こと。黒クマツ。くろ。あくし。

○まくくちのき信ちゆき御みハ一ツニツモテテ

つとむり。又ちよ下乃傳の傳の中。もまくとしもり行とやる。
二句を減合せて。のみまで。もまくとしもり。譯ももうり。そばとくバ。あく
らばさかをやもう。ぬ様。あぐれ。すまがくと。ふ記。あど。一つもあうち
〔ハ〕あるう。べき信。おねり。二句減合せて。トテモけやウニ早ウ散クラヰ
ナラバ一向ニ初カラサカヌガヨイニナセサカズハキヌゾ。と傳くるが。

○あかうりて。かの達のち。べき。て。ふをはあど。やむ。う。と。もべて
のきをえて。傳。べまうり。と。もの。細。て。ふをもなぐ。と。かく。もも
アソハ。アソテ。一。こめ。と。かう。と。歌。アソハ。アソハ。アソハ。
やいも。ひ。と。そ。やいも。ひ。と。歌。を。まか。バ。去年ト云ウカ。今年トイハ
ウカ。と傳。ま。べ。う。と。も。さて。の信。ちの信。ふう。去年ト云タモノデアラウカ

今年ト云タモノデアラウカ。とう。と。ぞ。よ。う。と。き。よ。又。考。く。と。く。と。く。
う。と。く。と。く。ね。ど。喜。ノ。キ。タ。フ。ラ。キ。と。譯。さ。と。き。バ。あ。く。り。か。と。ー。あ。る。と
あ。タ。と。ー。め。び。じ。わ。と。ど。此。あ。ね。ど。の。あ。る。ハ。事。ゆ。と。き。べき。と。が。る。を。
さ。ち。ひ。ぐ。と。か。ふ。と。ひ。づ。を。き。バ。その。こ。う。と。も。て。キ。メ。と。譯
そ。べき。じ。か。あ。と。ぐ。ひ。と。あ。わ。と。か。ま。と。へ。と。き。る。を。ー。

○詞をうへて。う。と。べき。行。り。花。と。見て。せ。め。ん。て。ハ。信。を。み。ん。て。こ
ハ。じ。も。ま。と。バ。花。ギ。ヤ。ト。呑。テ。と。傳。を。べ。ー。口。ぶ。と。う。と。よ。時。の。物。の。あ
く。る。ハ。信。も。あ。と。う。と。い。ち。と。い。だ。と。い。イ。フ。と。い。へ。と。難。義。ヲ。レ。テ。居。ル。ト
イ。へ。と。傳。を。べ。ー。又。あ。を。も。減。ク。と。傳。を。べき。も。き。考。ハ。事。か。り。ね
ど。の。を。か。じ。ハ。考。が。キ。タ。ワ。イ。と。が。ふ。あ。此。難。義。ー。又。あ。を。は。を。傳。を。

きとひよ。花咲かるとあどハ。花が咲タリト。がきそふ。げれの神めあわし。も
べて信ちかハ。がとつあとめまきシ。雅しけぞと。まくハ。がといす。花咲き。墨
あどハ。花ナキ里と。ノをもふ。又もふまき。澤モ。べきも。人一ノ。おもば。ぬと
をゆも。むかしの。おひでを。わ。歌。澤。ち。月。あく。ハ。ガ。に。り。う。

○酒の呑み物を。あきうへて。うと。べきと。かや。わ。を。そ。や。お。く。山。新。云
あどハ。新。う。城。上。下。う。と。郭。久。ハ。新。リ。ホ。ウ。ア。テ。ア。ヤ。ウ。ニ。喝。カ。と。澤。一。よ。さ
へ。る。よ。と。す。は。月。新。キ。ヨ。ル。デ。ユ。ヨ。ト。テ。月。ノ。新。ガ。テ。ラ。ス。と。う。つ。一。ち。手。か。地
を。ら。か。う。う。あ。め。も。ぐ。く。さ。う。を。上。か。う。と。て。コ。ノ。ゴ。ロ。ハ。イ。ロ。ト。お。昌。ノ
シ。ゲ。イ。フ。カ。ナ。と。澤。一。こ。う。ま。び。く。と。そ。く。と。ヨ。る。か。る。ハ。ヨ。る。る。を。上。へ。
ほ。と。て。尼。ワ。タ。シ。エ。ト。コ。ロ。ガ。キ。ツ。ウ。ア。物。サ。ビ。シ。ウ。ヌ。ル。フ。カ。ナ。と。澤。モ。ご。び。ひ。あ。て。これ

雅ミコトちと信ミコトちと。づかやうめも。うし。又てふをそも。うし。物をかへ。澤
ちべき。けり。かのう。かのう。の。あ。ま。う。う。な。く。お。ど。か。の。う。か。う。ま。う。ぞ。と。ぞ。し
じ。ハ。上。か。わ。も。べ。き。と。歌。め。と。う。さ。ハ。ソ。レ。が。く。と。あ。ふ。ま。う。下。み。あ。ら。る。た。純。を。
も。く。う。を。え。て。澤。モ。べ。き。し。此。例。矣。一。皆。歌。ま。う。め。べ。一。

○て。あ。を。も。ち。う。ぞ。か。だ。ハ。澤。モ。べ。き。酒。あ。一。こ。と。バ。別。ぞ。ま。れ。も。か。ひ。る
の。ご。と。純。ふ。か。を。へ。も。う。ぞ。う。純。信。ち。と。花。が。と。じ。ひ。て。も。不。か。ち。う。と。り。き
て。い。き。わ。い。す。て。雅。詩。の。ご。め。ま。ふ。あ。も。る。と。歌。を。あ。う。ロ。か。い。き。わ。い。ハ。お
ト。ハ。出。ヨ。ラ。ベ。く。も。う。く。ざ。れ。ば。今。ハ。サ。と。つ。辭。を。流。て。ぞ。か。あ。く。花。が。サ。昔
ノ。う。く。と。澤。モ。ぞ。か。の。傷。う。ね。御。と。う。そ。ハ。づ。し。ぎ。ぬ。大。と。二。つ。う。中。す。
花。あ。そ。ち。う。め。ね。ま。へ。う。き。も。や。ね。く。や。う。ふ。も。入。て。ふ。う。う。ハ。ま。ま。ば。あ。と

も回りく。そもといつ。今一つ山野かと云ひるべらが。おとのとアモを元へ
ちうくめ。あどめとげひ乃と。ハシツとべき御事。ことハシムイとちうきれ
を。その例へよから。山野かと云ひ。吾とのとぞえ。とひしとむふ。いく
ぢみとびひも。うまきばん。まきをさして。うまきだらをも。かう
むとそとバ。やくにうまきばん。かく。神かく。やどめ梅だら。かく
ちうかあ。おどめも。びひのと。かドハマアと。澤モヤアハ。やうては。もの。輪も。
かぞわく。む。錆ひのやかドハ。信彦ノハ。若。かとソ。経のほ。まく。おう
らふある。ものも。へうつて。あ。喜。やうた。花や。あそきとハ。喜。が早イ
ノカ花がオソイノカと。澤モグダ。

○ いも。信彦かと。もて。告ウとソ。事。いゆ。し。を。コライカウとソ。あ。

きんなん。ひあどみん。も。の。ド。花や。うち。きんハ。花ガチツダアラウカ。花や
ア。と。かん。も。花ガチルデアラウカと。澤。は。ま。け。チツタ。デ。と。ソ。ア。チル。デ。と。ソ。ア。
の。ウ。ク。ヒ。カ。と。きん。と。かん。も。の。ま。う。じ。も。も。と。ま。く。べ。ー。ま。く。又。倍。ノ
づ。き。も。う。ね。う。あ。よ。ん。も。ま。く。ハ。う。ア。ー。が。ー。も。く。を。る。ん。人。を。見。よ。
ち。う。歌。し。後。ぞ。ち。う。く。し。小。壁。か。あ。ど。み。と。び。人。へ。づ。き。後。へ。づ。き。お。壁。へ
づ。き。て。ん。ハ。皆。な。う。み。き。妙。歌。を。信。彦。ノ。と。じ。み。ア。ル。人。ハ。チツ。テ。後。ニ。
チ。ル。小。壁。ノ。と。や。う。み。して。ア。ヤ。ウ。ハ。チ。ル。デ。ア。ラ。ウ。後。ニ。チ。ル。ア。ラ。ウ。小。壁。ノ。と。あ。ど。い。を
だ。と。ば。し。幼。く。あ。此。歌。を。も。と。あ。ひ。て。ん。あ。ん。ら。し。の。え。う。べ。あ。ふ。澤。さ。き
と。な。う。が。お。う。ん。後。ぞ。ハ。オ。ツ。ケ。チ。ル。デ。ア。ラ。ウ。ガ。ソ。ノ。お。タ。後。ニ。サ。と。澤。し。ち。う。く。し
小。壁。の。も。サ。ミ。テ。は。ゴ。只。義。ノ。花。ガ。チ。ル。デ。ア。ラ。ウ。ガ。モ。せ。ー。と。や。あ。澤。モ。ベ。ー。お

色と信使がさりとてされば。中へかゝる。はドもとおぐ。を度むら
かくとらん心乃様をめどり。心ノ様ハ度がカクレアルデアラニ。と譯してよ
ろしく。又めさん人ちるよおどし。元ヤウト多アハトシツバ。信使うも
かかへヨ。うちまかにじりてハガクやうやううを。

○らんの譯ハ。うそびうり。新しめりの風やモーランキドハ。風ガトカスデア
テウカと澤をアラウランおあく。かよのやあく。いつのまふううひゆ
んきどフ。イツヒニモテニウタヤラと澤を。ヤラランあうく。人ふくさき
ぬをやさう。らんきどハ。人ニシラサヌ花が咲タカシラヌと澤を。カシラヌやモーラン
みふあく。又上ふや何あど。うそびうりとぞなきて。うしと並び
ホハドウイフテとつ詞をそへそへつまむ。又お段のゆかつけるも

○うそびうりやあくきのいゆく人時どハ。人が高ナヤラ声ヲアゲテヒタラナク
とつとく。とくらむらのうんの餘ひも。とくらむらのうんの餘ひも。やと合せて。ヤラとソシ。
ヤラハ。ナシ前まくらやうしとソシ。又がうづ今ハシムトヤウル乃ちかも
人のまくらも。シムトヤウル乃ちかも。ほドく上へり。やと合せて。ヤラ
と澤して。下もそば一向ニオトヅモセヌ。萬一つ見てどうぞ。うそびうり
とうそびうり。うそびうり。下もそば。

○らーハ。サウナと澤を。サウナハ。まぬきとゆかとゆか。も徒リサウト
ソヒ。がをたまう。しゆまバ言ひ矢のまこと。らーと同ド。あもむき。うそ
ある辞。しゆまをね思フ。一派。物ラ呑ウサウナと澤を。グムキ。らーも
サチと共か。人のねらかまわ歌を歌て。あーそやうも。うねも。バジ。まくつど

かわむす。まうんとうへきと。とび駆ひのまへ。將きよのくさびの
くじて。みびくちぬうふり。まくらぬれとくまくら。おつこし。くまを

ゆくもんは、時々がフルテアラウシ。時々うきしハ、時々がフルサウナのまゝ、けづ
アラウとサウナとのまゝ、そして、そのまゝびわくと並ぶるまゝべー。

○哉
かみハ。まもび。まゆ。かすとひへど。後のつ。まざま。雅うめすくかしも。う
さくがまほとば。まき。ゆをば。下上。まきうへと。ち。ま。ハ。ま。ゆ。く。も。あ。ぐ。も。
こ。達。ま。べ。ー。ま。べ。ー。此。辞。ハ。鶴。島。の。ゆ。え。ふ。を。ゆ。く。も。く。も。あ。ゆ。
乃。と。ば。達。ト。ハ。ま。の。あ。く。も。く。も。え。の。ゆ。を。も。く。も。べ。ま。と。ざ。ゆ。く。

○ ほの譯ハシモトウタリ。又考ハアラツナモド。シヒモテシモジタテ上
ヘタリタルハテと譯シテ下ムアキモトヨミの酒をシモトシヒモテシモジ

○なるとなるをとひ。ヂヤと譯を。ヂヤハ、デアルのつすくて、ルのまぶす
シマム。あふ。あめふにてハダといつり。たうりも、かくふわりのつすむ
くあれバ、僕ちめぢやだと。かく一つも。二つも。三つも。五つも。七
ちめぢもなる。歌のれのみとへうき。あくすり。こかくすり。かくすり。さんきてつ
徊あれど。こきつアレ居ガカルワ。アレね虫ノ声ガスルワ。みど譯を。べげあさハ。ヂヤ
ト譯を。なうとハ別みて。ほつてけざもしかかり。ヂヤとうつも方ハ。ばく

匂よりうき此る豆ハ切キ。匂よりうきちよりし。

○ぬぬるづつ。とくとく。きあそび。既みゆう人をりふ。諒ハ。信ちあり。若あ
きべくタとく。ちくみかうら。とば。ナツタ。もつ。ホフ。をバキタ。えくうる。と
バ。エタ。ききき。と。アツタ。と。あがみ。タ。タ。タルのルを。と。か。う。し。

○あるれを。ア。ハレ。と。寝。き。る。あ。ま。ー。と。く。と。ぬ。り。と。う。き。い。く。よ
や。ど。お。と。や。と。往。年。ニ。テ。ル。お。ギ。ヤ。ジ。ヤ。ア。ハ。レ。キ。ツ。ウ。荒。タ。リ。と。寝。き。む。じ。か。く
う。と。お。と。わ。と。れ。ハ。か。と。寝。あ。く。寝。あ。て。モ。お。だ。ら。今。お。お。人。乃。故。り。あ。
ア。ヨ。イ。月。ギ。ヤ。ア。ッ。ラ。イ。フ。ギ。ヤ。又。ハ。レ。足。ナ。危。ギ。ヤ。パ。レ。ヨ。イ。子。ギ。ヤ。な。ど。ソ。この
ア。ハ。レ。ム。と。づ。く。ひ。て。り。か。辞。き。び。し。あ。と。れ。と。か。き。け。あ。る。と。ふ
やら。ド。ミ。や。き。ハ。危。を。る。人の。ア。ハ。レ。足。ナ。と。り。か。き。危。と。う。き。の

構。へ。や。ら。ド。ミ。シ。う。構。て。あ。く。と。く。と。て。き。お。中。ハ。う。ハ。ア。ハ。レ。オ
イ。ト。シ。ヤ。ト。ヘ。ノ。云。テ。ク。レ。ル。危。コ。ソ。き。シ。ち。く。と。く。と。て。ん。に。ベ。ー。と。く。と。れ
よ。う。寝。り。て。ハ。行。く。と。お。ま。き。ア。ハ。レ。と。寝。あ。く。と。す。は。名。と。お。り
て。う。と。お。り。と。お。り。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
ひ。の。お。ま。ハ。ア。ハ。レ。と。お。り。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
レ。と。ハ。り。と。お。び。と。お。え。と。お。思。へ。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
○き。べ。く。行。く。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
ニ。た。と。じ。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
と。お。ま。き。ハ。ま。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。
○お。う。と。お。せ。と。お。ま。き。ハ。ま。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。ま。と。お。

之よりかは餘も雅うと信ちる。あくへやせば、いかに譯へが
し。まことに信ちぬへても、こゝよりすまべき事は、いかでて譯を。
○松沢序歌どひすめとからづく事してなまくは、そぞと譯を。かくと
譯して、ハナサ入キテ、中へにすばり、ソリ化ばし。もととおの歌
か、まことまぢうらを、ばその歌アモシゲヒて譯を。

○此物も内書はやう。譯語のかぎりハ、行假字はわらふ。假字づひ
きと云ふ。使よまふおかをくろじ。譯ノウムツク。おきりく。平假字も
てちひまくもくろじ。ちうけ中の假字は、此假字がうりやう
りかと。假字は、おせせし。敵のわいへ、ちうとおせし。又がくへ
おもくも短くも、筋を引くる。さかはなき假字も、てひう歌のをす

なむと。そとくもくとまく假字もくろじハ、そぞてうハ、かのドセウド。み
かくわいとがくわいわいバ。今もまも。思ふかまうせば、べき假字。かみの
こゑもあわらきバ。その假字もくえて、おき假字。又まくかまく。まく
きとまく。えうへまうびのうとかくねどと。まのあわしきと。ゆ
ふもせし。一、二、三。あよハ、上、まくまくハ、松沢序歌ど。譯
をもかく。まくもくをもめせし。但一をまかく。ひきねど。人のよく
御詞をもく。此をまく。一二三ハ、匂ひつけて、上々上の匂
びがく。かくわいわい。此をまく。匂ひつけて、上々上の匂
一をまく。ひきねど。ひきねど。いつたり。

○太くへいゆへりうべ。今のかね儀地サカニうらまくじゆにきて。わ
ねいとおやしててても。いとまくとどまのまへ。うきと川流が。なまくへても
ありねとみあわして。今ハシドコロが見いだす。今まぐる
ゑ。まごの譯タラシども中あちがやう考へあべ。いままくとくわ
らう。いとくべうをきじいとみつて。此うかのまへえさうもか
づくで。いとくべうをきじいとみつて。此うかのまへえさうもか
きくも。うやまくまくをひえくしむゆーもわくばくも。もも
ふくも。うやまくまくをひえくしむゆーもわくばくも。もも

本居宣長

やあくしうく人の心をもみみてよ。何のこももとまなとアヒル
○哥ト云物ハ人ノ心ガタ子ニナツテ イロイノ詞ニサナツタモノギヤワイ
世中にあく人あくらばとまにものわとばくとあり。あくは
かくまく物うけにまでつひづせむなり。

○世中ニカウヒテ居ル人ト云モノハ イロクト事ノ多イモノギヤニヨツテ ソチニヤカ
ヤノ事ニツチテ 心ニ思フコトヲ ソ時兄ル物ヤ聞物ニツチテ 云父シタノギヤ
危あたううびひとのうりじむくづづりと心をきくびいきし
いきもとめのソレ。きくうべとあるがうとある。

○花ノ枝ヘキテ鳴ク鳶ヤ水ニスニアル蛙ヤナドノ声ヲキケバ ソイニ面白イ
トコロハ皆哥ギヤ スレヤ生テアルホドノ物ハ 何ガ哥ヲヨヌゾ 犬類畜ル

イーデ皆モニシレノ哥ヲヨムギヤワノ

ちかくもとひよびてしらもつらばうごかーをふりぬあみ神
をものも従と思ひせをそこせりあうをしやちくぎくめきあ
のふりこくうをすし所ぐるはうなむ

○チカラモ入レズニ天地ヲウゴカシタリ 目ニ見エ鬼ヤ神ヲ感ジサシタリ

男ト女トノアヒダラムツシウナルヤウニシタリ アラクシイ武士ノ心ヲヤハラデ

タリナドスルモノハ哥ヂヤ

このうゑあるつらめかくをもじだときの時うりにぞまふり

○サテオ 哥ト云モノハ 天地ノハジマツタ時カラデケタワイ

うれしきはのをとめめ神を神とめりたててといづう

れひめみちじゆり

○ソ六カノ伊弉諾伊弉冉ノミカ 天ノ浮橋ノ下デ 人夫婦ノ神ニオナリ
ナセタフヲオヨミナセタ哥ノツヂヤ

おうけいとそそアリテのうきとめうきとめありあしてりあきて

れひめみちじゆり

○サウヂヤケビ レツカリト哥ト云テ世中ニツタハツテキタノハ [ひさ] 天デハ

下照姫ト云神カラハジマリ

ちくてむひそとハあめこうみこめめかうせりもの神のかまうを
う谷ふうりてがやくをよもよびもとねりてくめうらを
トみうをもじくうじうのやうあらうぬくとし

○下照姫ト云神ハ 天若彦ト云々神ノ内モウデアツタ ソ哥ト云ハ 下照姫

ノ兄ゴガ は外ウツクシイホデ ソノ身ノ光リガソニラノ岡ヤ谷ヘウツクテ 照リ
カヤイタヲヨシエモス哥ト云ガアルガ 其子テアラウ コレラハ文字ノ數ナドモ

定マツタモナウテ あノヤウテモナイコト、モギヤ

かのうへて、まきみのみとよらざあくらりある

○ あらうの此國土デハ素盞鳴ミカラサハジツタワニ
ちやゆ¹⁸神代アハタメカドヒシテモジヤカホアシテ
トのこうじてがくかりき

○ ち
神代ノ時かニハ哥ノ文字ノ數モ一ダ定マツモナレコトノホカ古風ナフ
デ ドウ云フヲヨニダモノヤラソニキノ心ガ今見テハワカリニクイヘテアツタサウナ
人の代となりてもさきぬを乃ちあくらむりびみそりぐわゆわゆと

九

○サテ人ノ代ニナツテカラ カノ素盞鳴モカラ始マツタ哥ノトホリニ 止一字

ニサヨムフニナツタワイ

まきのをめみことハあるてゐかをも詠めこのうもんかとまきと詠む
むとそりがもめまくアアだくわくまくあくまくまくまくまくまく
やうのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

○スサノヲノミムハ天照大神ノオアニ兄ゴ様ヂヤシテソノオアニト云ハ女ト一筋
ニオヌミ住ナサレウトテムキツ廻ヘハルヒ殿ラオタテナサル、時ニソノアタリ八色ノ
雲ガ立タラカタマリナサレテオヨミナサレタマニナクチヤ

八をうづと八をぬるごとあハをゆづくまゝハをかきを

○アレイクモ雲ガタツタアノ出ル雲ノハミ垣ワイン 吾妻ヲヘル宮ノタ
メアレ雲ガハミ垣ラ作ツタ^五アノハミ垣ワイン
リズヒソドシシでくつでまうてづと見る。ニハ画名スハララビ
かくでぞ花を色でもち代えりやと庭を行かれひ病をかか
ふらぬあそばあわくちるぐふれりふす

○サウニテサ 花ヲ賞競ニメリ きラウヤニタリ 庭ヲ感ジタリ 高ラ
愛シタリスルヤウナ心詞ガオホウサヘニナツタモノチヤワイ
ヨウキヨウ所もツドムアキヨリチドマリて年月を正
ムトムト山もゆかみのちとむぢよりねりて行々多々とあぐ
まであひのむきぶくにこのきもかくめぐるべー

○キツウ遠イ取テモタツタ一足フミダス足モトカラ始ニツテイク月モ何年モ
カマルホドノ取ニテモユキ 又キツウ高イ山デモフモトノチリホコリホドノ土カラ^四
ほツモツテ雲アタナヒクホド高ウナルヤウナ物テ けうモソントホリナ物デアラウ
羅波は乃うハみくそのあうんちドめがり

○サテ羅波津ノ哥ハ天子ノハラヨンダ哥ノハジメヂヤ
あさだ乃みうどれなふをづきてみととすくぬあえをよ
びうづりてうおふつき路をてえ年にうりみとバ王^{ワニ}に
とつふ人乃ソふうとらひとよみてくわすやうとすたう
この花も梅乃あはるふすべー

○羅波津ノト云ハ 仁德天皇ノ羅波津ニ古庵ナセテ皇子ト申シタ

時ニ東宮宇治ノ若即子トハタガヒニユヅリアフテ第位ニハツキナサレ
テ三年ニナツタニヨツテ 王仁ト云タ人かトチカ子テシキニ召フテ 仁德天
皇ヘヨーデ上タ哥チヤ ナラニコノ花トヨシダハ 梅ノ花ヲ云タデアラウ
正ゲモアヘム。須駕直見是がソシムハ。东主をハ。东主とモ。写一ノ書
ナシ。と。と。と。と。

アサカ山のあらのそゝねへ乃もソノモトリトメ

○アサカ山ノ哥ハ奥州ノ采女ノタハムレカフヨシダ哥デ

かづくまちあらきみをみものあくへはうりーくわうめふかのつ
をとあくあらそりめりてまくをめどーとめれど まきまし
かづくまちばうゆへうりきる女乃クアマヨリてよおるたりー

かづあらきみのそとをふる。

○コレハ葛城王ト云ヲ は用デ奥州ヘツカハセタ時ニ 國ノ守ナドガハ馳走ナ
レタナレビ アシラヒガ鹿末ナトテ 葛城王ガキツラブズノウニ召セタ時ニ まふノ
采女アツタ女ガ 盆ヲ持テ出テヨシダ哥チヤ トヨロガケ哥デサ 葛城王ノ
キゲンガナホツタワイ

此ゆくまちあらきみ父ぬ乃やうやぞもむかくふ人のそとをふる

○けナハツトアサカ山トニ首ノあハ哥ノテ、親ハ親ノヤシアサ子代ノ手
ノ始メニモニツ是ヲナラウコトモア

ソトモトクナムシムシムキアカハナムシムキモカクジラフベマ

○サテツジ哥ニ六ツノワチガアルチヤ 唐ノ詩ニモ大カタハ六ツノワチガサアルテアラウ

そのむくみぬくめうひそめうとあわさだきみふくせびそくまくう

○ソノ六イロト云ツニハソヘテ カノ仁德天皇ヲオヨソヤレタテ

すふもづかほやこの花をすぢありいまのまへとちくやうめをす

○雜故傳ニサクコノ花が **三** サアモウス春サキヂヤトエサクコノ花が
といつたまべー

○ト云ヤウチガサクデアラウ

ゆく川ふうかごへえ

咲花うかおもいつくあめあらまめとおもいこつきのつまちよせて

○咲テアル花ニシカリト呂ヒ入テ居ル者ノサモイギルフワイン 身ニ心芳ナコ
トノデテクルモシラズニサ

くふくめうくめ

こゑハトドトありしてぬくふくあじととぬもあうりけう

いふいづにううむもみのくく酒えぐくつてあくやかくう

とつへう歌をこうどくハラキアベキ

○けかへうト云ハ キムラタタコトニ云テ 物ニタトヘナドモセヌモノヂヤ ソニ
け咲モニト云アラカジヘテニシタハ ドウ云心ヂヤヤラ ガテニガイカヌ 五番メ

ノダコトウタト云歌ヘシタうがサ けかへうニハ叶ウデアラウ

みかふもなきうへえ

君うりすうとめあ乃あきて、いふばあーきこづみきもやらへしむ

○本へが弁別ニ **二** 起テイナレヤツタナラ ワニハ今カラ 無シウルアビ

コトニ消ルヤウニヨコテタルデカナアラウ 玄かハ一矢君ヨシムラガトコトテヨウベー
といづかるべー

こきハあかりおぞくへてそきグやうふれむわくとやうかりふじ
けうとうからつりまことども

○けナススヘアト云アハ 物ニナゾゾステ ち物ノヤウナト云ヤウニヨンダララ云ナヤガ
け君ニケキト云アハ ヨウ叶ウタトモ見エヌ

くわくらめのわやうみこめまミごわうりさせくもわうう妹マツハひで
トウモエアハイデ ササモモシシンキナカナ

かやうがすやこよにちかうカベベくクし

○

○けヤウナ哥カがけナススヘアト云アハ オウデアラウカ

トトくクみミミミう

エエググエエトトもモとトきキドドうウヒヒそソ海ハニニ宿スササミミハハトトくクとトきキし

○タトヒ海シノ演エノ砂サノ数シ、ヨミツミツストステモオレオレが高タカノシシイ松マツハヨミツミツササトトイ

トトきキハハトトうウゲゲ乃ノ草ス本ホキキシシママののみミたタてテ シシをヲ見ミるルシシババ
トトきキハハトトうウゲゲ乃ノ草ス本ホキキシシママののみミたタてテ シシをヲ見ミるルシシババ
やうなナきキババモモくクさサみミをヲへヘくるクるル歌カべベー

○けタトヘタトト云アハ イロイノ美木ミクヤヤキキナナドニヨセテ呂リ心スニニセタモノモナナヤ
ソニソニハハトト云アハカタカタレレタタ死シキキナナイ タトタトハ物モノニタトタトヘテ云アテ アラハハ六ロク云アハスス
チチニヨツチテ カクレタタ死シキキナナウウテテハスス、テテ ザザケケビビ始メメメノノイイ哥カトト云アトトシシヤウナナフフ

レバスコシモヤウノカハツタキラ出シタモノデアラウ

ミヌメアモルカ堵やく煙風をソムモ呑もテシテシモジキムヌモリ

○スマノ浦ノ海士が塩ヲヤク烟ガ風ノハゲヒサニヨヒモヨラヌ方ヘナビイテイタワ

此ニモヤドヤカキアベテム

○けうナドガタトヘキニ六叶ウデモアラウカ

リリニモシムトス

ツツミリムキヨウリゼモイリモガリ人ノミシタヌケアラキ

○偽リト云フガナイ世中アラウナラドレボド人ノエテクレル詞ガウシカラウゾ

コリテモベー

ニミツアとのソノアリシダーニモツアリニモアリニモアリ

カウアツビヨリモトモヤシムキムゼ

○けタバコトキト云ハコトノトソノウアタバニライノラ云ギヤけイリト云哥心ハ子

カラ叶ハヌけうハトメアト云物デアラウカ

山橋ア腹一ハイ十分ニ見タサテモアリカタイフキ 花ノチルクラ井ノアライ風

モフカヌケツカウナ拂代デサ けうナドガタコトキト云ニ六叶ウデアラウカ

ヒツリツヒモヒス

ヒツリツヒモヒスモミリモテキシテシテシテモトツグム歎づく裏づくセリ

○け佐屋形ハゲニモハ繁昌ナフギワイ 佐殿ノノツヅベガソムト三ニツ

モ四ツモツイテサテケツカウナハ普請ギヤ

といひて歌ふべし

あきの音をほそて神かづらしげりとしおとハアシギトキナム

○サイハアトエハ は代ヲホメテ ミタヲ神ヘ申スノヂヤ ソニハ此殿ハトエラハ

ドウモイヒアトハサヌエヌテイギ

春日坐ふこと御つゝ侍、前代をいぞく御ハ神吉ちよしむ

こまくやまくかまくべしむあやましもくもかきとせても

えうはドーキアキアキアキ

○コレチドノうがいヒアトエハスコレ叶ウグデモアラウカ ドアタニイキノレナノハイ

ロニ分レウフハ ドウモサクハコラレヌフデサボル

今れよのまうりつまつまん花ノ一歌りかうらうらうらう等

えうおきとあくの三いでくとば

○サテ今ラノ世、中ハ人ノ心が花ぐニコニツイテ ウキニナツタカラシテ アダナキット

セヌラバツカリーデルニヨツア

つうこのみめあうりうわき、やめくへーきぬこーなりてまき歌うや、

つうよハ花もくきほりつゞきベキミカルうふぞみりにとり

○大切ナあが色ヨシノ家ノ

ナ

ナイショウゴトニナツア カタイトコロハ

アラハニテダサレスヤウニナツアニテウタ
き

そのちドーアハおもへをかく歌べくなむ

○ホンタイントコロヲ思ウテ見バカウアラウコトズサナイ

いよへりよみみをむる花の行と秋の月の夜とあらす

ふくに波先にてあまつりてあ波しゆをまくしめ

おとこ

○昔ハは代くノ天子様が春ノ花ノ時ハ秋ノ月夜ナド云ハイツテモツヌテ

居サレシヤル衆ヲハ前ヘミテナシケガシニツテハウヲ上ルヤウニ作付エタ

アラハ花をうかとしめたりおきそくはうすよりまぢいわくハ月を呈ふとてち

かべあきやまふとじやかひみく波をぬぐてさうむうらんとてかへせんとく

○サウニテ或ハ花ヲ見タウニテヨリツキモナドニテモ子ハツテアルイタリ

或ハ月ニ執心シテ又ニ行テハニダ出スサキヤ入テニウタアトヤトトクノ

案内モニラス取ヲアキスヘコチスヘトニテアルイタリスルウナ風流ナ心ニテソノヨン

父哥ハ考ハテは花ナサレテソノモニヨツテアレハカレコイ者ナハオロカナ

者チヤトヲフヲハ知ナサタモヤウヂヤ昔ハサ

花をうかとしめたり。やまふとじやかひみく波まで。まべて風流ニヤビ
くみやま方波ハヨシ。松の小篠簾。石を石ホロカ。かくかくれるハ。もぐ
アシ。さかハあろうねるをあう。身をハマて。よりもうねすみをと
て。アモ考へて。あらね。かく。うれく。もうねるかくの。えよ。とせば
今一つかハて。方をりいとで。ハ。あと。うの。も。ば。不。思。う。方の。も。を
り。ひ。て。や。む。べき。よ。ハ。う。ほ。を。や。

あうちの。みみうち。じまき。ふと。へ。佐。う。み。あ。う。け。て。君。を。初。が。い

○サテヌサウガリハナシニサジ石ニタトヘタリ筑波山ニツタリシテ君ヲハ祈オイリカレ

ト。う。み。ア。じ。お。ア。リ。ま。だ。し。め。の。一。み。ん。か。だ。す。り

○又ハ身ニ過タヨロコビノアル時ヤ心ニアユルホドオモシロイ。タノアル時ヤト

ぬじめたりによまく人をこひねぬけまふ友をあつば

○アルヌ又富士ノ山ノケムリニヨソテ人ヲあしウ思フヲミタリ 松虫ノ声ヲキイテ

交ダチラナ第シウヌウタリ

ちの砂住のねりねりうひかひりやうふかがえ

○キツウ车ガヨツテハ 高砂ヤ住ノ江ノアソスニ松ト 相追ナヤウニ異大レタリス

ル時ニモヨミ

そひかをくもひふ 遊ニ遊蜜ミタリキヨウムニシテ いくぞ
くちあはれもなく、大さくはほどむすこひて、お遊シ。

をとこひのむう一派 ひいひでをも船ヘアマキミタリヨリカモキ
をひじてぞなぐだきをひ

○又车ヨツテハ男ハコトコザカリデアツタ日ノクヲ思ニダシ 女ハワカザカリノ早
ウスギタコトヲ愚癡ニクヨイト呂ウヤウナ時モニナキラヨンデサ心ヲハラシ

タフヂヤワイ

又喜むあーまあ花乃ちまくはの夕暮ふこのをみめるとき
○又喜ノコロお花ノチルタニタリ秋ノユフカタ木ノ葉ノオチルモラキイタリ
竹ノハナ一びとかかみめ新リスアラモと落とをねがき

○或ハ陸ノ絶ニエルヌ白髪ヤ面ノレワノ毎年ヌウナルヲヌテ歎イタリ
草ノ露ヤ水ノ沫ノキエルヲヌテ 赤身モアノトホリヂヤト云フヲ知テ驚イタリ

あるいきのふもちえあざりて時をう一おひよふヌビヒタカツ

一とくとくなり

○アルイハ昨日デハ繁昌レテ何ノ呂ヒコトモナカツタ者がニ分ニ不仕合せニナ
ツアナシギラシタリ 又モトシタカツタ中ガソエニナツタリシタトキ

阿木ハ松山の派をかまゆせ申すもばくと船着の下岸をながみし
あつまはもぎりもぐれをうきへ

○或ハ又末ノ松山ノ旅ヤ野中ノ清水ヲタトヘニシタリ 勝ノ下紫ヲナガメ
アリ 壁ノ壁ノ羽根がキスル數ヲカズヘタリ

阿木ハくとせ仰せうてあし渡人アリソヒテ河をひまで其の中
をくまくまつま

○或ハ竹見身ノウイキヲ人ニハナレ 高麗川ヲタトヘニ引テ世中ヲ恨ミタリ

まつまとつま御沙の文とうひうねをいぐ

今ハぬじめゆもなづりしむにあとはぐの橋を送るなりと
くへもえにのまざんをなぐさめき

○又今デハモウ若士山モ煙ノタヌヤニナリ 長柄ノ橋モ又わにウム事タトア
人ナドハ別ニテヨムハツカリデサ心ヲハラシタフヂヤワイ

此をこと盡ことする後ハもがとん。ト一盡されど、泣きぬきりとこ

みへはうめりとハラシ。とくと雅志のうめび定むや橋し。
あかのあらしよやうめくのれをもうしめし もりとも

○ズツト昔カラ右ノ至リ傳ハツテキタウキニモ奈良ノ時代カニ別ニテヒロニツメワ

イ 其は時代ニハ室卒ノ哥ノアラヨウは名知テアツタモノニカナアラウ

かのあやし西ノアラキミルノアラムのをも人まわなし
すれもどりなづき

○主は世ニ正三位神、キノ人磨ハ哥ノ聖人デサアツタワイ

アミハ天も人毛身をらむせとつむねるべー

○コレハニコトニ君召合財トヌモノデアラウ

執乃のあを立田川ナシおがくともみぢをばみうどの傍目か拂と
え能い春ナアリとお望ムリテハ人ナ修ガララクハキ
ウとのミナシアガミキスル

○秋ノエラジニ立田川ニ流レルお祭ヲソノ奈良ノ帝ノ御目ニハ錦ノヤウニは産ナレ

春ノ新吉せ山ノ桜ヲバ人磨呂心ニハ雲カトバツカリサ忍ハレタワイ
又ふのぞ乃西人トリ人音タシヒキムアヤマヘキリキス

○又山々ノ赤人ト云人ガアツタワニヨモ哥ニ妙ナ名人デアツタワイ

人ナシトウク人ガ、みくもむとむとむとハ人ナ修ガミヒトヨ
シナもくとかくねやきり

○人ニロハ赤人ノ上ニタツハナリニクカクウン 变ハ人ニロノ下ヘオキニクイクラ
井ナコトデサアツタワイ

なづみゼロゆき

もく川おままでゆるうるそくバ修ムヤシカム

人まう

梅の木の下に立つておまきはありますが、床の間は、ベランダの
ほのぐと、うの浦の浦乃お音か時が、まじゆく船を、ごとく
あへ

まは生かまきとつもやく、あぢ坐御まつり、よ移ふを承
○春ノ野ヘスミレヲツマウト四ウテカレハ事タガアリノドカデ面白サニ此野デ
サ一夜寐タリノ

さうぬ舎かまくすらとバかまを望、芦を渡すて、とびせきる
○若舎ヘシホガミキテクレバ千瀬が、サニ芦原ノ方ヲ持テ鶴が呴テワヌルアレ
此ノモ代かきて又モ、びきよ人、もくと升け、とくみきくしやといと
のよどく、ふくもえむをぞき見る

○此二人ノ外ニモ又スレタ人ハ代の時代あり時々エヤシアソタワイ
あきらめとおきみちをあけ、見て、おもえ、とくづき、とくづ
くあります

○サナケ奈良ノハ時代、デノ哥ドモヲ集メテ、美葉集トサ数号ヲツマタワイ
うかいふ、のを、まきと、まめうを、も、ある、人、よづふを、り、うり
きりに、ちうわ、と、ど、これ、と、え、る、う、ほ、え、ぬ、う、も、う、が、い、ふ、な、し、ら、か
かの、陽、時、う、り、この、う、年、ハ、セ、と、せ、わ、る、と、せ、ハ、う、ぎ、に、ま、む、お、り、ふ、る
○其ハ時代カラコチヘ年ハ百年アリハ十代ニサナルワイ
うかいふ、一、ハ、乃、る、タ、ま、と、お、ま、う、海、を、も、う、ま、る、人、よ、し、人、あ、わ、う
ぞ、い、づ、ふ、ひ、う、り、ぬ、と、う、と、お、ま、う、じ、う、わ、ま、と、こ、ま、う、続、え、る、う、海、え、ぬ

うるわしきへなまくら

○其間ニ昔日ノモ哥ノワケモヨウ知タ人ヨシダ人ハタクサニハナニワツキ一人カ
ニ入ト云ホドノフデアツタチヤガソレモ多ガニニ得タコロト得ヌトコロガサアツテ
カノ人麻呂ヤ赤人ホドニ十分難ナイ名人トハアレス

○サテ今其人こそアラ云ウヂヤがモウニ宦仕ノ高イ人ノヨハキノハタカナヤウ
ナ物ヂヤニヨツテソレヤノケテオイテ

○ノノ官佐ノ多ニテハナニレニモかニ近イ代ニテノ名ノ生至タニハ

をねらう傍に遍照八方にまたがる
御心の如きをかくすとぞ

カミムキノモトノ取をつけてつゞくふんをうごかむづぐ
○ニツ僧正遍照ハテノテイハ得テアツヌケレボニコトガスシナイ 物ニタトテイハウナラ
綺ニカイテアルオヤニヲユテセシナイ「心ヲウカヌマウチモノヂヤ
廣モヅリ糸ムロトカクシムル事モアヒムカモニキサヘヤ那ギテ
モチモトキアリホヅリムニヤムナムモテ取ムリハタヒモトカモジム
瑞穂野モテムヨリあちてちもなる

名ふをでくあきるをうりぞ女やあられあちみきと人ふくみゆゑ
うきよもくめあきりもくはまのあくらあくらをことむしゆくじせんがく

立テニホヒノホツアヒヤウチ

月やあらぬちやもくめまゆるヨグミシケルトキモリユヘ
太きハ月をもりてぞれぞこの月をばん乃ひと耶みよ
御ゆゑ秋叶多きもおもひはうるせバいやもくねりもむりまくわ
^居ゆんかみやをひでひもとばるもふてそのうみふあるをいも
あきん乃よキくぬまくさんがざく

○文室康秀ハ宿ハタクミデキノ駄がソ宿ト相馬セヌイハダアキンドノエイ

キル物ヲ著ヌヤウチモノヂヤ

ぬくふ生ベ乃本物もまくべうべ山見を行くことわくし
你まみくどの傳承志

昔ゆきかまくらの翁あ朝うてて日ゆくタカアヤハアル
宇治山乃傍ませんもあとばくをくかへてもぐめをりりもくた
をひそじ秋の月夜又ふらうきのきみあらゲ

○宇治山ノ傍在撰ハ宿ガオクカラウチソシテ始メトハテトノツアヒカリト

セヌイハ秋ノ月ヲ見ルノニ曉ノキノデ、キヌヤウチモノヂヤ

ウゲ唐ハミヤこのとくもあうぞをむそくうちく人ちひかうり
よそくうくあわくすし翁をかきうきをかよりてトクチ

○け人ハヨンダ哥がちウハ侍ハラヌニヨツアレヤコレヤラヌ合スフガナラ子バ

トクトハシレス

をつこすらひうーのとくわりひきの流すりうれすうやう

かてはよかばいとむかにせ乃おやうとくうわふ、めりに
ようくねきをくね乃おきばくべー

○小野、小町ハ昔ノ衣通姫ノ流ナキギヤ アヒナヤウデツヨウナチイ イハ

エイ女ノナヤム取ノアリ似タ物ギ ツヨウナインハ女ノアユニアラ
エイテキヤ人ノミツシミヌトモセミシテミリクニハシ

モテテテキヤ人ノミツシミヌトモセミシテミリクニハシ

モテテテキヤ人ノミツシミヌトモセミシテミリクニハシ

モテテテキヤ人ノミツシミヌトモセミシテミリクニハシ

モテテテキヤ人ノミツシミヌトモセミシテミリクニハシ

大らとけうみぬーハ

コトバオ

そのまろいやーいもぐもみきああ

ヘル山人ひ花めうげかやをめうがび

○大友、黒主ハオモレロイ取ガアツテ ラノテイガイヤレイ イハド薪ヲ負テヰル

ヤ、ガオヤヂガ 花ノ木ノ下デ休ニテ居ルヤウナテイヂヤ

千秋云。譯ふ。オモレロイト
コロガアツテトモアハ、あ字
序小頗有逸興とひふかれて、補足とも
うべし。此序よりハ、されかからぬのを一が爲も。

おひ出て来一に時ハちのうとめつてこゑと人ハーらをや

達いよとてそてゆうじよへやる者ハないやあくと

このやうめくそれぬまことゆるゆべりあくつかづくほもしも
ろごりちやーにあらきこの紫乃ごくかかわうきじくとの
あかしきくそめのまぬくぬうだー

○此外ニモ名ノアル人ハ野ニハヒロガツテアル葛カツチヤ 林ニシテウハエテアル木ノ葉ヤ

ナドノゴトクニタニアルケレドモ 皆自分ニ奇ヂヤト思テ居ルバカリデ 実ニ
奇ト云モノ、クレイヤウスヲバ知ラヌモノヂヤトニエル

カクアリシムアツビジハラモホシテモトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ
トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ

トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ

○サテ右ノヨリデアツタコロニ 洋當代上^{タヌ}孫ノ天下ヲ治メサセエノモ
今年九ニサナルガ

アラ御キアラシシテウミの店ヤ一海ノ下うまでなグ便シテ
アラシタジモカニシテウミの店ヤ一海ノ下うまでなグ便シテ

○ドコカラドコニデモモレタ取ノナイは慈悲ガ日本ノ外ニテイキワタツテ イヅ
ノウラニテモミナソノ^{カタ}花薙ヲカウムラヌ者ハナイ 雜有イ時節テ

トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ
トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ

○イロイノ法政事ヲトリ行ハセエ、^{ヒヒニ}其外ノ一切ノ事一テラ^{イダキ}ハステ
アソバサヌアリニ

トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ
トクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテトクニシテ

○古アツタ事ヲモ忘レアバサル^テ 年々シウツタ事ヲモ忘レアバサウ
ト云忍^テ 今モ序後甚バサレ又後^テヘモ傳ハレト云石テ

近五^テ年四月十八日^テに太内記^テまみ^テとおり^テ御書^テシテ^テのあ
づ^テト^テま^テく^テゆき^テお^テう^テひ^テま^テま^テし^テあ^テく^テあ^テら^テみ

つゆ右衛門、舟をみのくやうにゆらふかやうとて
○當年延喜五年四月十八日ニワレラ口人ノ者ヘ作付ラレテ
キシえうきに以テぬふきうとみゲラルをももむをう
らし老練にてす

○万葉集集ニ入ラヌフルイテ差ニ自分ノノラヲモ集メテ差上スルヤウニト作
付ラレテサ

さきがね、小も梅をかどりとありとてほそくまをもくわ
ぢきくと吉井の小いるまで

○ソノ中ニモ春梅ノ花ヲカサス哥カラウツタツテ 郭ニラキクテ 花榮ヲ折

あ雪ヲ見ルうニデハ季ノ物

又はかをかつきて天をありひ人をとしむ
○又鶴亀ニツチテ君ノ法壽命ヲ長カレトニテ祝ヒ申シタリ 其外ノ人ヲモ祝フタ哥
秋葉及ウミノ花にてはくをこひき波山かくわてよ向をいのち
○又秋ノ萩ノ花ヤエノ葉ヲアテハ妻ヲ志シウタヌ立ノう 岐坂山ニテ築立
テ行テ手向ノ神ヲ祈ルナド

うハちゑ秋々からりぬくまぐれうけむしもくをねひる
○アルイハニ季ニナドノガニモイラヌ イロイノ難^サノ哥ニテヲサ撰ミセイト作付
ラレテモヨリ撰ニテ集メタ

もべてちうくちくまたみづけて古タラ和音集く

○もくお殺翁合千首毫ノ殺ガハ巻数号ハ古今和音集トツケタ

かくあのうじあいをもくびて、下あらゆるにとまつた
ごへうをあわくほむりねば

○カヤウニけよ此集が出来たて

山下の

昔ノ撰集ノ跡モ断絶せズ

おみのヨイ

奇ガ数才ホクアツツタナバ

いまハ行こう川乃處すちよ。うみもまくをひく従い
えわとわよほうびのそぞろべき

○モウコレカラハ奇ノ風ノワルウミルキジカヒモナウテ 次オニ此道ノ末長ウ繁

昌スルメデタイフバカリガサアラウ

スミシマクアトガモホ花かわひもくねくしてじききぬ
の秋ハ重ねあがれをかこむれば

○サテ、あとトモガキハ ヨミニアハ 吉の オモニロイトコロモナイニ 実テモナイ

名バカリ

秋乃

上手ナヤウニキヒヤサルナバ

あのがきへみが、ニヰ、も落がいく。まくは、もくは、書写へ書写
かるべし。それとあると心あり。同ド書くは大サ川、市にもとめ
みじくたんのう。後於き集序かと。作ともうき語り立とひうら。
伊勢がせきかひ。後の色が重しあは。うきうが中の物をあらう。こあ
ひといす。構成みれりうけくわべ、いり。又或人をいふ。
うきようは。うとあらうぢはうべし。おのがては、うとが
いつても。やまね文うけあひとひ。今はか此かくいへ
うらゆべし。まくのほとまくは、まくとまく。おれま

徒小用ひる俗みどばげ事ねどありべきようくば。

かのち人々みかんとくとすみやくともあかくと

○世間ノ人ノ聞トヨモナートアラウカトモレヌーラハ哥ノ心モ恥カシケレドモ

ぬかびくをめとらぬなく承乃おきぬハシカムがこのせり
おきくうまれてひすはせあつばうきよほアびゆ

○拙者ドモがけ世ニ同レヤウニ生レアハセテカヤウナ作付ラノアル時弟ニキタコト

ヲサくじひメツテモ居テモなづの病テモサメテモ恍ビニス

もとまろぬくなりかとせとあめふうとおれるう即

○カノ人麻呂ハトウキクナシテニラタケビ奇ノ道ハノコナテアルサテノ雖有イコトカナ

ぬらひらきうつりとまうとまうじうねいひゆにわらも

○コレカラ後又トヒ時代ガ傍カハツテドキウニナリユラトエテモ

このうきめか若あさをや若ふやぎのあくまんむなの葉ひちりう

せまくしてまことにうきめくつりとものぬぐくとまえらば

○此集ガ若世間ニ若タエウゼズニ若末長ウ若久シウ傳ハツ

テサヘルヌタニ若あさやの日あハ波のちをやまとまだとてう傳あ

ふべー・ウハ若キシ・ズレ・ウジカムバとソヘアモる浪シ

うれさみをとまうひとのうれしをえくしんじ

○末代ニ至テ哥ヤウヌラモヨク知リ物モ心得テアラスハ

あまくは月減足るがまくにゆへをうまく今をうしき
毛うし

○此集ヲ サテイ結構ナ集ヂヤトミテ 天ナ月ヲルゴトノニ作ギタツトニデ
今けは當代ヲニヌハスト五ハアルイワサテ

半秋まづくへとハ後セヨウアラキ
まもろうけ近きの時代モニセリ。

古今和歌集卷第一走縄

春秋上

ゆるやくふまくともちきる日ひある

東あの方

年少うちかきハ事にたり一させばうそどやいをきこへりやいをむ

○年内ニ春ガキタワイ コレデハ 同シ一年ノ内ヲ 春ト云タモノデアラウカ

ヤツリコトレト云タモノデアラウカ

喜くめらむる日よす 紀葉く

袖ひぐらてむまびくもみこやきる所喜くつりぬ乃風やさくらむ

○袖ラヌラレテスクウタ水ノユホツテアルタ 喜ノキタ今日ノ風ガ フイテトカス

デアラウカ

歌より

よもへへうむ

喜んで見るやうにみすこせぬうのゆうに喜ばゆりほ

○春がキテ霞ノタツメハドレドコヂヤゾ 又バ吉野山にてダ雪ガフツテ

ナカニ喜ノキハ瓦エヌガ

二條后林喜乃木山田は

宮めしらか喜ハ木山田とうじもみしを了後ひすやうく庭す

○テダ雪ノモツアル處へ春がキタ早^モニヨリハ鶯ノ氷ツタ漫モモウトケル^今アラウカ

歌より

よみへへうむ

梅がえにさかううひを喜ひてゆまうといふど君のゆりほ

○梅ノ枝ヘキテ居ル雪ハヤ鳴ケレバ フタケヤウニ春ニテカケテ雪がフツテ

春ノヤウニモナイ

喜めきども喜みていざとおつてくと

宮めあかうりかゝる波よ

素性は師

喜もてバ花うやうそむちく喜めうも枝ノ葉乃なく

○喜ニアツメバ 花ヂヤト呂テヤラ 宮ノアリカツテアル木ノ枝デ喜ガナク

歌より

よもへへうむ

人びーぬくそ先て一きりきとばまえ行へぬ喜めあくろゆむ

○トウカラ花ノヨリラはウ恩ヒコシテ居ルガソニユ立チヤラシテ 喜ニアツメバソ

ト、喜サヘダロクニ消ヌノニソソはツテアル木ノ枝ノ雪がハヤ花ニスエル

○走鏡一

〇七三

此う古くすゑど。三の句。ギリソトうねりべし。ギリソレドあやめき
ナリ。此格万葉か多し。御を此集のうゆりうてハ。タキウミア
御も。耳歌とねむう。ソシモとそもへ事つ。もく後の人。ハハの
様どい故て。とかくふ改ももむも。おもと。おもと。タキベヨシハ。
始のうむとかきうひう。またバ始を一やか。又かうと行
も。後うりのまわいをうひ。改りもくかやあくし。

う人のじもくさんのおあきあわいまうちまもぬうし

二條后伊女儀林のみやをむねときまえナシタ四月三日
東秀チ
あまふ先オヨーセアシバサウてあわせどうあひどか日ハタケねぐら古の
東秀か
かくうふかりや正カクをよみとめひ

ゆしやのやそひで

喜び日乃もうりふあす。あるどかーらむ古とおろぞ。びーに

○此年ノ春ノ日ノ光ノヤウナ雑有イは惠ニテ蒙リスル私デゴザリスレモ 年ヨリ

テシテカヤウニ頭か雪ニナリスルハサ雑義ニ在ジスルコリシヌ物デゴザリス

吉めうきハタケり
きのほくゆき

高タカくからこの老ももなれ。古とば花ぬき墨と花そもに。る

○老がタツテ木ドモノコノメモ張出ル春ノコロはヤウニ雪がフハ 花チ千里

ニモサ花ガチルワイ トニト花トスエル

喜めうきハタケり
きのほくゆき

喜やうたおやあきとまく。正もうびひそじよみねふとも有つあ

○ハヤ春ニナツタ「ナバ モウ花がサキサウチ物ヂヤニテダサカヌハ 春ノホタカホドヨリ
早イノカ 花ノサクノガホドヨリオソイノカ 鳴ナリモ鳴タラ ソビデドチラギヤト

云コトガシレウニ サテモニア書るサヘナカヌ「カ

ものもぐりめえ

みぬめもぐらみ

喜まぬと人をいへどもうづひも乃なうぬうびりハあじどりき思ふ

○春ガキタト人云ケレビ「ダ言ガナヌ タテモヨイナカヌウタハイセモ オハ

春デハアルマイトサ思ウ

喜まぬと人をいへどもうづひも乃なうぬうびりハあじどりき思ふ

谷風からくわむけむくびくあくらうづひみほやまちむくつを

○春ノ初ニ谷ノ風ニアソココ、トケル氷ノヒカタテウチタス浪ハテウド花ノヤウニズ

エルだコレガ春ノハツ花ト云モレアラウカ¹²

まのうとしき

花乃魚を風けしゆうりかくめぐへくごききくまくかよべうハや海

○風ノ吹テイク幸便ニ花ノ香ヲコトゾテヤシテサンヨウヨサソヒダシテクル案内者ニハ

スルヂヤ

大河も置

喜むは花より出ぬア急きくはあくらむあく滅くみきうミアキウ¹³。喜

○谷カラ呑テ生テクル喜ノ声ガナバ 喜ノキタト云フヲタレガレラウゾ

喜氣株樂

喜むて花も小花もぬや花里のむのうからもうア喜うぞ¹⁴。喜うぞかく

○春ニナツアモ花モナイ山中ノ里デハ ナミモハリアヒガナサニ 鳴トモナササ声ヲ

○空境一

〇九五

シテサ 喜ガナク

。み秋え、ひ夕、ものうかうきあ、ぞきのたくとつまきて。
ぞやじ、よもうるねへうきとふをハシ。此れあわし。

歌アラバ

よみへーうど

せべちく、あゆーきをばうぐいとのねくき、すハねきくまきく

○ワレハ野ヘニノ近イ所ニスヒヲリテアヰバ、喜がヨウルテ、毎日アサカラキ、ニス

春日ヰハラホトナヤキミドアミトモニカレ、エホトムモト税室
かをとがゆきけうぶ火ノ野、おみてるよいまくら行りて、ヨウアヒモテモ

○は春日野ヲバ今日ハ焼テクルナヨ

三

妻モホテアシテ居ル、モキテ遊^ホテ居ルホト

○は春日野ノ宿火壁ノ番人ヨ、坐テヤタヌヲテクル、羊ハ此野ニ住テ居ル、
タイガイ知レバアラウガ、二ウイクガガリアツタカラ、若菜ヲジニハホウゾ

みホウハね乃、名くふまえねくふまえこと豊ベ、ノホウ加つゝまり

○山ニハアレ吉サヘ、ダキエズニアツテ松ナドモ白ウニエルニ、京ハヤメキリト春
メイテ野ヘニヘ人かデ、若菜ヲツムワイ

カズトロアツテ、吉あうふゆりぬ、日日、アツバヨウ、ナシミテ、モ

○一 オレナヌテドコモカモ、吉あがツ今日ハフツタカ、アスヘ一日フツタナラバ、オ
ホカタ若菜がツミル、クラヰニナレテアラウホドニ、生ヘ坐テ、若菜ヲツムウツ

仁和のみ、み、ふあまく、くろは、はう、人、み、ヨウ

絶シタ、湯、す

えがとめ、まめ、せふ、あて、あく、み、ほ、と、ぐ、こうも、で、み、言、ハ、ゆ、り、

○ソコモトヘ進セウト、みじテ、野ヘ坐テ、は、若菜ヲツムダガ、体ノ外寒イ、
袖ヘ、若、ガ、フリカ、ツテ、サテ、ナギヲ、放、テ、ツンダ、若菜、デ、ゴザル

○茎葉一

〇七六

うをすれとむちせらき一筋よみくもてまうきる

後ノ御紀

春日生め正月つとあやとそと乃被すうとへと人のゆくもじ

○アザク^{アツミヘ}春日せノ若菜ラツミニヤラアレ白妙ノ袖ラツテツダツテ人ガイクワ

チヌ。ありの従い^{ハシ}。近^{ハシ}とぞ毛づらふとえとハ。假富士^{ハシ}黒妙袖をや。

歌^{ウタ}アモ

在原行^{アシハラ}歌^{ウタ}

春ねまうみを磨乃アソモウキ波うまも山風小アミモベラ^{アレ}われ

○春ノ着^{アツメ}ル^{アツメ}ノ衣ハ横ノ糸ガウスサニ 山風ニサミダレルデアラウサウルエル

寛^{アシハラ}時^{アシハラ}きさのまは^{アシハラ}合^{アシハラ}ふよむ 源^{アシハラ}むのゆきのねは

うれも^{アシハラ}お^{アシハラ}な^{アシハラ}み^{アシハラ}ぐりも^{アシハラ}う^{アシハラ}と^{アシハラ}バ今^{アシハラ}一^{アシハラ}レ^{アシハラ}お^{アシハラ}う^{アシハラ}う^{アシハラ}ま^{アシハラ}り^{アシハラ}ま^{アシハラ}す^{アシハラ}る

○イツモカラヌ松ノ青イ色モ 春^{アシハラ}がキタレバ^{ヒトシホ}一入^{ヒトシホ}染タウニ色ガニシタワイ
キムテナリモアホゼ^{アシハラ}モアシム^{アシハラ}一^{アシハラ}ぬ^{アシハラ}み^{アシハラ}を^{アシハラ}む

歌^{ウタ}アモ

○一^{アシハラ}衣^{アシハラ}春^{アシハラ}ノフルタビニサミヘニ^{アシハラ}ま^{アシハラ}ノ青イ色ガサダ^{アシハラ}一^{アシハラ}スワイ

コ^{アシハラ}サ^{アシハラ}カ^{アシハラ}ハ^{アシハラ}シ^{アシハラ}ア^{アシハラ}。あ^{アシハラ}が^{アシハラ}ま^{アシハラ}の衣^{アシハラ}を^{アシハラ}も^{アシハラ}ふ^{アシハラ}泡^{アシハラ}し^{アシハラ}飯^{アシハラ}材^{アシハラ}復^{アシハラ}ま^{アシハラ}。

○ホラヨツテハホコロ^{アシハラ}モスフ^{アシハラ}チヤニ^{アシハラ}青^{アシハラ}イ^{アシハラ}柿^{アシハラ}ノホラヨリカケル春^{アシハラ}ノコロハ^{アシハラ}
ケツクサ^{アシハラ}花^{アシハラ}が^{アシハラ}咲^{アシハラ}ニダ^{アシハラ}テホコロビルワ^{アシハラ} ほ^{アシハラ}う^{アシハラ}か^{アシハラ}花^{アシハラ}乃^{アシハラ}も^{アシハラ}く^{アシハラ}と^{アシハラ}。

歌^{ウタ}アモ

○春^{アシハラ}一^{アシハラ}

○九七

傍正遍照

あきみどりふよひかまくらへるあをゑふもぬまくらまくらやあぎの

○アレアノ柳ヲヌレバ ウスモエギ色ノゑヲヨツテカケテ キイナ白イアヲニア

玉ニシテツナイデ サテモノスルタナホノ柳かな 鮮村ヨリ

歌くらむ

かみみちむまへづまちむかねごみうづまれどもまがぞありゆく

○善ヤナニヤカヤ 喜ノオモシロウサヘヅル春ハ 物ゴトニナニモカモ 改シテアタラレウ

ナルケレバ オレがけ身バカリハサ 喜ノクルタビニダクトフルウナツテイク

まちうちちちちちやくさきもまくらぬ山中かお不つねくとよぶこぢううね

○アチモコチモ案内モシラヌ此山申ニナシヂヤカ呼半鳥がナイテ人ヲヨブガ トコモ

ヤラサテノ戸ニツカリトシレスフカナ

そせア無をきて。あゝまかのきる人をもひてよゆ
久河角、躬恆

まちうきバ多クおりふくしめみうちゆきとせりにまやつてゆ。

○喜ニナツミバアレ雁がカヘルワ 穂ハアノヤウニ ソラヲトニデ北ふノ方ヘユラヂヤガ

コハヨイトロデ^四ユキアラタコトツタラシテヤラウカヨ

かみるる歌くらむ 伊勢

喜慶もやくをえきてくゆく名ち花あき里にまみやあく人

○オツシケ花がサクヂヤニニア ハヤウニ喜ノ産ノタツタノラヌステ、イスルアノ名ハ

花ト云モノ、昔カラナナイ里ニスミナレタカイ とテ花ノ面白イヲシラヌデ

○喜慶一
○大ハ

カナアラウ

絵材。花あき墨の説より。

歌ちゆべ

よみんしらぎ

毛りつまば袖アキムカホヘアシテモアリシヤクアシグヒミムハ

○梅ノ枝ヲ折タニヨツテ ソニテ袖ガニホフノデコソアレ コニ梅ノ花ハアリモセヌノニ

け袖ノニホフノラ 梅花ガコニアルトカラカシテ 嘉ガキテ鳴
ナヌ

色トアリモ魚アシテシテモ縫トアセリヤシトグ袖モシーやどメ梅モ

○梅ノ花ハ色モヨイガ色ヨリ香ガサナホヨイワイアハレヨイニホニギヤ ハヤニ

ヨイニホノスルハ タレガ袖ヲコタケキノ梅花ゾイニア

金どぢかアリキシドラヂキ取くまつ人の魚小アヤマシタラ

○ムヤクナチギヤニ 座ノ近イ取ニ梅ハウニイゾ 花ガサゲバ マリヨウタウデ待人

ハキモセヌニ ソイヌノ神ニホニトリチガスルワイ 千秋云、梅うゑド、花のうぢき
梅花シマラトロウツキシテシテアリシテシテモ縫トアセリヤシトグ

○梅ノ花ノ下ヘチヨツト立ヨツタムホドノヲガアツタガソカラ 人ノフシシヲウツ
ヤウニサ 衣ガ香ニソマツタクイ キツイ白ヒナモノヂヤ

シメハシナリタテヨウタラ 东三條、花のふわよすうちぎ

シメハシナリタテヨウタラその花をアリテカズム花をかく風やア

○ソウタイ笠ハムリヤカホヲカクス物ナハ 嘲ガ笠ニヌウトム梅ノ花ヲラツテ

吾ガ年ヨツタ形ガカラレルカドウチヤト ツムリヘサヒテ瓦ヤウ

歌ちゆべ

秉性は仰

ナシハシナリタテヨウタラ うわ風あくぬりうあくをアリテアリタラ

○毛獲一

○九九

○オレハアハウナ今ニデハ 梅ノ花ヲタバヨソニバツカリサア、ハレモトナフカナトテ
テ元テ居ヌか 梅ノ花ノドウモイヘヌ色ヤ香ハ 折テカウ近ウヌテノフギヤワツ
又シヨソニエヌヤウナフデハキ 絶妙也

梅花モアリて人ノ一からりき

うとのひ

秀ナリテルミシカウヌキモシ梅花以修モシ其モリナムヘシテ
○此梅花ヲミ松デナウテハ 誰ニ見セウゾイ 色デモ香デモ ヨウ知テ居ル人
ガサ ヨシアシハヨウシリス ソヲ知ヌ人ニ見セテハ ナテセシモナイフサ

シテ山ナリてよる

つらゆき

うとめむふちあちべもくわやうやうかるをどもくいぞきりき

○梅ノ花ノニホウキサキノコロハ 暗^{クダツ}山ラクライ^ミノ夜ニコエル時^テモ 梅ガ
サイテアルト云フハ 又エイデモノソノ匂ヒデサ ヨウニセルワイ

月夜か梅^{折テシテ}花モアリてとくのりひきバモアリてとく

みづ

月夜アリ^{シテ}月夜アリ^{シテ}月夜アリ^{シテ}月夜アリ^{シテ}月夜アリ^{シテ}月夜アリ^{シテ}

○今テヨイトコロヲ一枝折テヤラウトシウガ けヤウナ月夜ニハ 月ノ影ノサス取^カ
ミナオシナレヤウニ白ウヌ元ニヨツア 梅花ガソヂヤトドウモ^シトラレヌ ユニハ

白ヒラタヅマテ行テサ 知ラウヨリホカハナイ

まちよ梅ノ物をよる

まのまちやえハ行やぬ^{シテ}梅^{折テシテ}花モアリてとくのりひきバモアリてとく

○圭麓

〇三十一

○春ノ夜ノ雪ト云モノハワチノタヌ物チヤナセト云ニ梅ノ花ガ暗ウテ色ヨシニエ

子香ガカクルカ香ハナボクラウテモほレハセヌ色ハカクレテ香ハカクレチバ隠ヒテ

モナレ居レヌデモナレドチラモワチノタヌ闇チヤハサテ

そつちふちくづくとふかどりき人のぬふ久しくやどる
スヰテソノチニタヌシブリテソイヘイタクシタバソイアテイユガウスニヤドハニコノ
でほどへくほみくもとくらむバウセおのうぐドカムカム
トホリニサニカヌノンデアヒカバラシツカリタルヤトロヒテナシテダミシテヨガソコニサイ
かねむやどりハわよといじゆして作りくれをそそかくモテ

アル
アキシ梅むそくつてよめる ほくゆき

人ちりきんもとくばすらむハ花をむしりめくほくゆ

○人ハドウギヤラ心モカカラスカカハツタカシラスガナジミノ取ハ梅ノ花ガサワガ

事タレバコレヤウニカタノトホリノ白ヒニアヒカハラニホウワノ

もせやどりに梅あらまきりきくはくを

伊勢

ちぢみふ傍ノ川を花をみてあくせぬあく神やなとおも

○流レテイクリ花ノ絆ノウツタクアノ水ノ中モ花かアルトニテハイツノ春

デモダニサレテ折ラモセヌニラウトニテソ水デ袖かヌレルガ今年モヌスル

テカナアラウ

御みふくとくらハ京極院の花乃池もとを

えふねぐく川とよみハその池うりできもとやとくをよみべし。

年次へく花乃花となくあらじくかくほそやくもとつすむ

○年ヲ暮ニテ毎年春ハ花ノ絆がウツイテま花ノ鏡ニナル水ハ花手

○春一

○四一

カルノヲ 疎ガノモルト云デアラウカ 芒ノチリカルト云ト 年ヘテ鏡ヘ塵ガ

カルト云ト 词が同シテ デヤニヨツテカウヨニダノチヤゾ

用ふきを、とくに種の事をしてくると、まことにあらかじめしておおどハ俳諧歟
アリシキ事ふわくもや。

イハキ
おノリをきく梅の花のちりをよおる

きう

すとろくとぞとぬれをあひソレルをみふうひゆうむ

○日かクルト云テハニ 夜がアカルト云テハヌイシテ ハジモ目モハナサズニ見テ居ルニ

此梅の花ハ イツヒニケヤウニホツテニウタフヤラ

チ国、うつみの花、やくからう。 もちろん、けやくのま

なり、興、ハあくも。

寛葉咲きのまはう金繁、トミヘーらむ

梅カ
梅主と神ノリ、ソレにて只ぐてぞもちもちくともかくもおぐるー

○梅ノニホヒヲ 神ヘウシシテトメテオイタナハ、喜ハヌテニウタムテモ ソレガ

春ノ形ニテアラウニ

柔性はく

ちほと見てうべきものばくめむうそくからひノ神ふらぬきあ

○ハアホッタワトバカリヌテ ソブシデアラウフ デヤニ ヒヨシナフヤ 喜ヒガ神ヘノコツ

タ ユビドウモタメ梅ノ花ノフカワスレニス

歌あくび

トミジトモく

ちりぬもあをいふのうと梅乃花をつきぬ乃花ひぬくうせむ

○梅ノ花ヨ ホッタリヒセメテハ香ヲナリトモノユシテオナ ソレラ屋ニ

○圭謙一

〇圭謙一

トキノモダシグサニセウ

人のあく／＼とあらきの様の花をもとめども

てよも

ほしゆに

あく／＼とあらきの様の花をもとめどもはう／＼が／＼るむ
○春ハサク物ヂヤト云フヲ外ノ様ニナラウテ 今年カラ始メテ知テ 嘴タケサク

危ヨ ドウゾチルト云フヲバ ホカノ様ニナラヌガヨイゾ

お／＼らば

よみ人をもと

ふき／＼人ももとをもぬひ／＼とおづ／＼おびそあんもやまむ

○山が高サニコヘハ誰モホテヌテ 賞絵スル人モナイけ様花ヨ 人かニヤウ

クンセヌトテ 卫リツラウヒウナイ オレガスルヤシテヤラウホドニ

又ト里ヲわざ人ももとめぬふき／＼
ふき／＼わがえふくま／＼バモカモトモまくも尾ふもとくらか／＼つ
○山ノ様ヲオレガカウ見ニシレバ 霽カ一メシニドコモカモ立テカクシテ 危ヲ
ルセスワリ サテモイヂノワリイ 底カナ

深歎后乃あす／＼花がそぞ様の花をひそ終へふ
を足してよも ものあらひたふあく／＼ちき／＼
年ノ様とばよ／＼ひもあいぬも／＼わきどもそ／＼えきばぬ／＼ひも／＼
○年ノ様ヲ経テシヌハ ワヌクニモイカウ年ハヨリシタガ サリナガラ アナタノ
古繁昌ナサル、け店殿デ カヤウニ花ヲ見ニシレバ ナニモ物思モサリマセヌ
なまきとの花をひそじてよも

五言業あ終だ

そ中にもやえてまくらめあうせば春めあはのじきかくま。

○イツソ世中ニトニト橋ト云物がナイナバ ケゾク春ノジブシノ心ハ ノドカニア

ラウニ 橋ト云物がアルテ ハヤウニロクト心ガササギテ 売モノドカニオモハヌ

鉢／＼うき

石が／＼もんき／＼とがねさく／＼むよわてもこむえぬ人乃とめ

○岩ノウラハルは早イ川がナシバヨイニ ソシタラ内ニ居テ エレヌ人ノタメニ ア川

ノアチラナ橋ノ枝ヲ折テキテア ミヤゲニ持テイナウモノラ 川ガアシテド

ウモヲリニイカレス

ふ乃とくをアセドより えせれほ原

足てのミヤ人かく／＼モ橋先もびくかをりてしめづやふとし

○カウシテアノスリナ橋先ヲ足テ 人六冬ウタ咄スバカリデオカウカイ

ソレハズタカヒガナホドニ チンデニ折テ東テ持テイシテ内ヘミヤゲニセウ

花ざかりあ京城元やアシテうそる

足波とハ柳 さくをうにませてみやこをちかひ／＼まくらり

○け山ノ上カラカラ見ほせバ 柳ノ青イ色ト橋先ノ白イ色トヨキニせテ

トント錦トエル けえワタシタコロノ 京ノケニキガサ 春ノ錦ト云モノナヤウ

ちくは花入もかくてアリサ老矣と云ふ事にてよう

きのミヒのり

色もうと向トもく／＼かくらめど年寄人ぞう／＼もあうク風

○玉籠一

○武四

○ 桜ハアノヤウニ色モ香モイツノ年モ同シテデ昔ノトホリニサクケレモ 幸ヲ
旅タ人ハサコトナリニ着イ時トハ大キニカハツタクイ ピラニの夕、はく
らをじてハツカヒトヤウルを桜をしたまひとむ
トモチシモトキモ。 ○小秋云はうしめどハ、まほさけとじりとつ
くもれど、うじとでハ、わがひとまき・ふく
そきるけくをよみる 134

○此桜ノアツタ山ハ 三十四 芝メテ度ガ立テカクニテ 知ニクカラウニ 一 タレカニア

タニダヘテイテ折テキヌフゾ

おそれとあわせし残し物ふよそしもとまつま

桜花嘆ふまししとづ 一 えきねんひひより見ゆもあらず

○ 桜花モサイタサウナワイニア アノ山ノアヒタカラ白イ雲ノ尼エルノハ
寛和時々のあれす念う おのと
みづくやくはいへりちまる桜花雪うとのうぢらやまくれまよ
○吉野山ノアカリニ嘆テアル桜花ヲ見レバ トドサ吉ヂヤナカトトリチガヘラ
セキ

やよひイシム月の有きよトみづく

いせ

おうめもくとく達る事ふも人のうめふうとやもとむ
○ 桜花ヨイヅモノ年ハ早ウチルモ せメテ春ノ一月加ハツテ長イ 今年バカリナリモ
人ニタシノウスルホドユリト嘆テアツガヨイニ ナゼニイツモト同シヤウニ人ニモ

○ 在後一

○ 正五

早ウチル

けちのとふをは一格に例えし。詞のあをかせよ

スレ。キアリシダウシテ、いうがるともとしきトヨウカゲ。

さくめ花ひらうとふ。久しくうはざうり人のまうう

うめうりよみき。みんへーらば

うめうりと名ふとまもとしき橋を年にすれまくとまうちきう

○橋若ハアダナ物ヂヤト名ミソタツテアレ キドクニ今旦ニテチラズニ待テ居タワイノ

内モタツクナニスルモテサヌ人ヲサヘ カクアダナ物テハコザヌ 一年ノ

スレヤスレウムヨテモ下サヌモ松ノアダナハ心ヨリハ 橋ガハルカニシナヤ

みへー

ねりわくわくは

まくこどハ明日ハ雪とむゆりあほ。消をハモリもととくま。や

うめうり

ねりわくわくは

○半松ハ橋アダナメ六ナイ 業平ヲアダナト云レヤルガ ソヤ大キナチガニチヤ

ワレガ今日キツメレバコソ アノ橋ヲ若チマトハズレ モレ今ラ日キラズバ 明日ハ

モウ雪ニナツテ降テニウニアラウ エトヒソノ雪ニナツメノ方消ズニハアジメトテモ

雪チヤトコソニヤウチレミトノ花トハズヤウカヤ

おーらば

ねりわくわくは

うめうりばかしもどとくねきぬとくまくらくをくばそりてと

○橋若ハチツテニシテカラスナホエタウ思フテモソノセハナノイモノヲ 折ナラ

早ウ今日ノ内ニコソ折ウチナレ 12日ノモウチルニアラウ

きりうらバモトギルもううらうもひどやどかりてちうまでハそじ

○此橋ガアリスニサニ一枚折テニヤウカトユヘド 折テ取ルノハ イカニシテモニア

○を後一

○前六

惜イヤウナ物カナ サテノトセウゾ イヤイ折ルノハ惜イフチニ ドヤヒ木

ノ下デ宿ヲカツテ居テ 花ニテハソノ、デスヤウ

きはわうをと

様色にあらとハぬく潔てきむ花へちと聲をほ乃歌見テ

○花ハオツ、ケ若テレニウテアラウソノ後ノ形元ニキル物ヲ様色ニコウ染
テ着ヤウゾ。千秋云。ほもく色といつぱうじ様の花の色ふといつせんべい。

さくらおひひ乃花けをきくばんかまうてきくわき人よ

トみくおうきよ みつゆ

おをむけ花をかくすか事も人を教む後を立トかべ

○コチノ花ラヌガテラニムエテクル人ハ 花毛ガテラノナバ 花がチツメラモ

ウホス、イチヤニヨツテ 苗テニウタ後ニサ 其人が立シカラウ

亭ノ子院のあ含の時よもよ

伊勢

見か人もねき山ざすしめらうもほうけおめむ後ざさかま。居

○あテ見ル人モナイ山里ノ様花ハ ヨソ本カノ花ガミヂ苗テニウテ後ニサ サ
カウコトギヤニ 今ハドヨニテモは山ニ花ハアルチヤニヨツテ ソシテ遠イ山里ナドハ
誰モ足ニクル人モナイギヤガ 本カノ取ノ花ガモウキイジブニカツテカラノ咲タラ

イヤトモキイ取デモ足ニカツテアラウヲ

古今和鶴集卷第二を残

春秋下

歌一ノ音

トミ人モアシ

まちがまくもかねむくわのこくまうつうじよや色うつゆく

○夜々ガタナビイテ モニ庭へ色ノウツテヌ元アノ山ノ鶴花ガ チラウトテ
ラ 庭ノ色ガカハツテキタ

まてとみふかちうでーうるすねうづば何をけうか思ひまさあ。

○チリカツタ様ニ向ア ハラクチラギニ待テクレト云ノラサ入テ ソデニハモチラズ
ニ留ル物ナラ 何ヲ様ヨリ一サツヌ物モトハハウソ ソテハモウ世ノ中ニ様ヨリ
一サツヌ物アルマイ 惜イニ早ウチハツカリガ アツタラ様ノキズヂヤ

○ワルウカツテウザクトサツテアラウヨリ サツクリトサリナニ早ウ益テニ
ウガサアカケガウナフギヤ鶴花ハ 世ノ中ト云モノハソクタイ何ニテモ長
ウアベカナラズニイクチガワリイ物ナレバサ

此里ナリもじぬーぬをし鶴をちらりぬよびひあめくれて
○コヨヒハ此里テトラウフギヤ はやウニオモニロイ鶴花ノチルギニ 肉ヘ
イスルヲバ呑ヒダズニサ

うつきくめそくもあつるう花さくゆくとゆしまふくあふる
○鶴花ハサ 咲タワトヒタウチニ ハヤカタ^{カタ}「方カラ益テニウタワイ 人間ノ
一生ノアヒダハナノモナイ物ナシガソニ、アヨウ似タフカナ

○空境一

〇北八

傍ふ遍照ノヨリテ あくわきゆ

あじとくちを

桜あらわがちくわむちくわびとてみぐんひあても足おく

○遍照師が大方此花ヲ見ニまテクレえ、デアラウトムフテ毎日一、テドモア

エヌ ケツデ尼エヌカラハ モウ大方尼エヌノデアラウ スヤヨイワ 桜花ヨ

チナラ 緋手ニ敷テニキヘサ チラズニアッタテ在取ノ人が事テスモセニ

カヤウニヨミヒユ卫 ほ目ニカケヒ已上

モリ林陰にてしづくめ花乃ちりきびとてしめる

さくくは師 義均

桜ちる花乃とすはちもちねがくに寄ぞありつゝきよびとふかく

○桜花ノチル取ヘキテ又レバ 春萬ハ春デアリナガラ 君ガサチラシトフ

ツテギキハキエニクイ 売君ハソクニ消ル物ギヤニコレハ正ノ君テナイ桜バ
ナチヤニヨツツサ あれ云々。かニ向ハ。まくらをのち。さくらはと。あそびを。さリ
ツツツキをみ。花をもたらすと。下とあはどす。

桜の花乃ちりはく成れてトゞき

させのわし

花ちるは風乃やぐりハくわうかくふをへよゆまくくもむ

○サテモノアツヌラ花ヲ せうニチラス風メガ逗留シテ居ル東ハ タヅ知
テ居ル者ガアラウ 誰ガ知テ居ルゾカニ教テクイ ソヘ行テゾニシニ

恨ミライハウ

うちんやんをも桜のむとよある

○茎葉一

九九

さうくはゆ

りまくらをもちりたむ一さうりわにねば人かうじりてあむ
○けやウニ様ノ早ウ若テニウノハア、ヨイ料簡ギヤ ドヤ様ニヨ カモ少
シヨニ若テドウナリニナツテニハウ 人ト云物モ一サカリ盛リナ時ガアリテ
シガ過キテオト只タナズ 老ボレテラレモナイヤヌヲスニ見ル、デアラウホドニ
ラヒモクリキムノのままできてかづりにタク後ふよみて花

アカヒテツラヘリ けく

一老ヌー老カヤクヒトヒムをリキモチリエテちくばちくあむ
○けるチヨツトキテ尼テイナニヤツタ人カ 又ゴザルカト 今日一日ハニア待テミテ
シレテゴザラズバ チナラチツタガヨイ 様花ヨ 太カヌ今日ハゴザリサウナ物ギヤ

山の山くら御足てよも

まち處うふかくまくむまくまちうあはざあもるすできかのと

○庭ハナゼニけやウニ様花ヲカクスヤラ ルリトユルハナラズ正 せメテヘ枝

カラチルアヒダナリニ一戸又ヤウモナ ソルダサヘ度デニラヌ

シマムシコねひてヨブヒリスアムハアハヤ様ノヒトモア
シニキシのモ仰りきうらひアムモヤ様ノヒトモア
アムモウラヒトモアトア、義あトアラヒトモ

シマヒアサヒモヒムヘモチリヌアムキモチリ 様ノヒトモア

○ワレハアバイガワルウテ 帳ノ帷ヲオロシテヒツコモツテバカリ居テ 春モ

イクカヤラ日ノ色テイクモニラヌニ 嘆タラヌヤウクトラウテセツカノ

○毛毛

四十

待^ツタ^シ候モ ハヤケヤウニウツロウテニ^ニウヌワイノ

東宮の雅院^{アマテラスノミコトノマサニ}も乃みうハキムチウシムラ
ミクシテ^{ミクシテ}高^{タカシ}セ

枝^{ハシ}うちも行^{ハシ}づふちうみーむきれバあちてももくわくとくわく
○水^{ミズ}上^{アゲル}ヘチツテ流^リル候^{ハシメテ}アレトツツト沫^{ヌカ}ヤウニミエル 枝^{ハシ}カフモモロウ若タ

若^{ハシメテ}ヨリツテ 下^{アシテ}モ又^{アシテ}回^クアヤウニモロイ水^{ミズ}沫^{ヌカ}ナルヂヤワ

候^{ハシメテ}もおちカラ^シとよ先^リ ほくゆふ

あ^{ハシ}く^{ハシ}バさ^{ハシ}く^{ハシ}やハ^{ハシ}く^{ハシ}ぬ候^{ハシメテ}もお^{ハシ}く^{ハシ}あ^{ハシ}く^{ハシ}も^{ハシ}く^{ハシ}

○トテモ^{ハシメテ}ヤウニ早^{ハシメテ}ウチルク^{ハシメテ}リ井^{ハシメテ}ナ^{ハシメテ}バ 「向^{ハシメテ}ニヨテカラサカスガヨイニ^{ハシメテ}を^{ハシメテ}ミサカス

六^{ハシメテ}井^{ハシメテ}ヌゾ^{ハシメテ}橋^{ハシメテ}モハ^{ハシメテ}けヤウニ早^{ハシメテ}ウ^{ハシメテ}井^{ハシメテ}テ^{ハシメテ}ステ居^リコチ^{ハシメテ}デ^{ハシメテ}ガ^{ハシメテ}井^{ハシメテ}が^{ハシメテ}サワ^{ハシメテ}クト^{ハシメテ}オチ^{ハシメテ}カヌ

チ笑^{ハシメテ}あ^{ハシ}く^{ハシ}バの花^{ハシメテ}いとね^{ハシメテ}る^{ハシメテ}。此^{ハシメテ}も^{ハシメテ}づと^{ハシメテ}し右^{ハシメテ}の譯^{ハシメテ}のと
を^{ハシメテ}りて^{ハシメテ}えべき^{ハシメテ}。例^{ハシメテ}を考^{ハシメテ}へ合^{ハシメテ}せて^{ハシメテ}味^{ハシメテ}べ^{ハシメテ}。

候^{ハシメテ}のぶ^{ハシメテ}く^{ハシメテ}ら^{ハシメテ}す^{ハシメテ}と^{ハシメテ}あ^{ハシメテ}く^{ハシメテ}ぞ^{ハシメテ}人^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ソ^{ハシメテ}シ^{ハシメテ}と^{ハシメテ}バ^{ハシメテ}よ^{ハシメテ}き

ら^{ハシメテ}く^{ハシメテ}ら^{ハシメテ}く^{ハシメテ}ら^{ハシメテ}と^{ハシメテ}あ^{ハシメテ}く^{ハシメテ}ぞ^{ハシメテ}人^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ソ^{ハシメテ}シ^{ハシメテ}と^{ハシメテ}バ^{ハシメテ}よ^{ハシメテ}き
○オレハ^{ハシメテ}候^{ハシメテ}モハ^{ハシメテ}早^{ハシメテ}ウチル物^{ハシメテ}チヤモ^{ハシメテ}呂^{ハシメテ}レヌ^{ハシメテ}ソ^{ハシメテ}ヨリハ^{ハシメテ}人^{ハシメテ}心^{ハシメテ}ガサ^{ハシメテ}アズナ^{ハシメテ}モノ^{ハシメテ}キヤ
ナ^{ハシメテ}ゼト^{ハシメテ}五^{ハシメテ}ニ^{ハシメテ}候^{ハシメテ}ハ^{ハシメテ}ダ風^{ハシメテ}ガ^{ハシメテ}フ^{ハシメテ}カ^{ハシメテ}モ^{ハシメテ}バ^{ハシメテ}ヌ^{ハシメテ}ミ^{ハシメテ}チ^{ハシメテ}リモ^{ハシメテ}セヌ^{ハシメテ}ガ^{ハシメテ}人^{ハシメテ}心^{ハシメテ}ハ^{ハシメテ}ソ^{ハシメテ}フ^{ハシメテ}ク^{ハシメテ}デ^{ハシメテ}モ^{ハシメテ}ト^{ハシメテ}
タ^{ハシメテ}ニ^{ハシメテ}早^{ハシメテ}ウ^{ハシメテ}ツ^{ハシメテ}ル物^{ハシメテ}チヤウ^{ハシメテ}サテ

銀^{ハシメテ}材^{ハシメテ}下^{ハシメテ}勺^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ほ^{ハシメテ}る^{ハシメテ}。

ち^{ハシメテ}く^{ハシメテ}の花^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ち^{ハシメテ}ら^{ハシメテ}よ^{ハシメテ}る^{ハシメテ} き^{ハシメテ}の^{ハシメテ}あ^{ハシメテ}づ^{ハシメテ}り

か^{ハシメテ}き^{ハシメテ}く^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ひ^{ハシメテ}る^{ハシメテ}の^{ハシメテ}ど^{ハシメテ}き^{ハシメテ}た^{ハシメテ}ま^{ハシメテ}ち^{ハシメテ}日^{ハシメテ}ふ^{ハシメテ}ち^{ハシメテ}ぐ^{ハシメテ}ん^{ハシメテ}う^{ハシメテ}く^{ハシメテ}あ^{ハシメテ}め^{ハシメテ}ち^{ハシメテ}く^{ハシメテ}し

○日^{ハシメテ}ノ光^{ハシメテ}リノイド^{ハシメテ}カナユルリト^{ハシメテ}シタ^{ハシメテ}モ^{ハシメテ}ノ日^{ハシメテ}チヤニ^{ハシメテ}ドウ^{ハシメテ}云^{ハシメテ}フ^{ハシメテ}デ^{ハシメテ}若^{ハシメテ}ハ^{ハシメテ}ヤウニ

サワケト心ぜワシウキコトヤラ

春あめくまちのむぢしゆでさくらみものもくは
トモ

トモ

爰ふよきを

まつりハをめわくりばとまきてあけうらづやうくわとえす

○まつ風ハ花ノ咲テアルアタリラボヨケテフチ モレ風ハフカイデモ 花ハジ

ブシノ心カラヒトリ、デニモチルモノカト タメヒテ元ヤウニ

さくらのちるとよす 丸山、みつね

さくらのちるとよす 丸山、みつね

○サクラ花ハヒトリ、デニモヒタスラ君ノヤウニフルモノラ ンレサヘ尼ニ トダメ上

ドノヤウニチート云フデ風ハフカイデ

しづかのびりてかづりまくできてらそる

まくわに

ふまみみくつねがうくらくがね風もくらくふまくとくまくねがう

○アノ携ノアル取ヘ行テ足テ折タカツヌケレバ 宮高サニエノボライテ 畏念

ナガラオレハヨソニヌイケル冬 風ハアノ携ヲ心ニカセニスルデアラウトロハレル

鈴柳山さきの花

おもい

一本 ちあくぬ

春あめくまちのむぢしゆでさくらみものもくは
トモ

○携ノチルヲ惜ミ人ハナレバ けやウニ此節春あめフルハ 世ろノ人ノ
携ヲヨシニシテ泣クナミダカイ

亭五虎、うかねえ

けくゆき

橋をちりゆう風乃なまくらかとすみあきをみ信がくもくられ
○橋ノチル時ニ風が吹キテ、ち花がバラク中^{ナウ}デサワ^{ナキ}ハテウド浪ノタツ
ケキヂヤシテ海ベニナゴリトエガアルもがリハ浪がヌキヤガ花ヲ
チラシタケルノアトイナゴリニテ、久ノアリモセヌミサ浪がタツワイ

なづみくさの沙テ

ぬろゆやくちりかくちづみやこか色のうづむもく咲キヌ
○フルイ昔ノ都ニナツテニ・ウメけ奈良ノ京ニモヤツリ色ハ昔ニカハス都^デ

アツメ時ノトホリニ花ハサイタワイ

まめうみてよか。 よくまめむひよか。

花の色ハ庭ノリニ生てしんをくじらふをくふぬをめまち山写
○花ノ色ヲバ庭ノ中ニコメテオイテ見せぞにせメテソノ香ヲナリトモ庭中
カラヌミダシテキテコノモニホハセイ 李ノアノ山ノ風ヨコレヤ

寛あぬきのあはうかねう 義性法師

花のあもいあほりう急ド喜ムモバうつみ色の人をひきり
○花ノ咲ク本モモウ今カラハホツテ東テウエイ 李ニテ花が咲テ早ウ
ウツロウ色ヲユナラウテ人ノモウツロヒヤスウナルワイ

歌あくび

よもへらぎ

まみ色ノソラアマムナ里ハわにじ咲くらぐるをみくらぐる

○春ノ色ハドコモカモヒラ一イヒバ イキワヌツタ里トイキワヌツタ里トノ

○圭薩一

四十三

ヲヘタハアルニイニ ドウ云フテ 花ハ嘆タ取トサカヌ取トガアルヲヤア

もれうてくわく つゝゆに

之滿山をあそとかくじうきがもと人トまくと花やちくらむ

○サテクニ三滿山ハキツウカスンダ^{カナ} けヤウニア處ノ隠スノハ此山ニハ

人ニシラサヌナイレヨウノ花ガアルカシラス

うさんかものみとめかと小花又おまくとふ乃わすりか

まかまうりりのぬふよる そとん

ソゴリナキまきめぬでアキレドセシモアバキメ花の隠クハ

○ドレヤケフハ日ノクレル^ニデモ け孝ノ山ベ^ニカケアルイテアソバウゾ 日ガクレタトテ

モ 花ノ陰ガナササツナカイ イクラモ花ノカゲガアバ モレ^ヒレバ モレ^ヒタナラ サイヒヂヤ

花ノカゲニトミラウワサテ

なげハ、なハ、を、げハ、何、げとあく

いふ組し、す、笑、み、げの、後、く、一、く、も、あ、ば、と、つ、ふ、や、を、を、

考めあそてよわよ

いつまでウキベテノハ、ノハ、う、きむ、花、一、ち、く、ば、^後、も、へ、べ、

○花ガモラズバイツデケ野、まニ心ガウカレテ居、^ルアラウ モレ花ガモラズニ

アツタエ^ル 千年^テモ^レモ^レテタテウヤウニ^ヌレル

歌、く、ら、ビ

よ、み、か、く、く、ら、む

喜、び、ゆ、花、乃、ら、う、ハ、行、と、お、先、ど、う、ひ、く、も、と、ハ、今、下、を、り、上、

○花ハ今、年、モ、又、年、カ、ラ、後、モ、春、ゴ、ト、ニ、盛、^ルハ、ア、ラ、ウ、ケ、レ、ド、モ

ソノ盛、^ルニ、見、^ルハ、コ、チ、ノ、食、^ル身、チ、ヤ、ワイ ナ、ボ、花、サ、カリ、ガ、毎、年、ア、ツ

テモ今がナチレヤ又トスルトナラヌ サウニバアリガホイ花ヂヤ
花のじとそのほの形ノバシテ 芳は又とかきりきぬま。^居

○花ハモツテニ、ウテモ又春ニナビ 年ニお脛ラズ定シテ咲ク物ヂヤガ

世ノ中ガ花ノトホリニ定シテカハラヌ物ナラバ ミニテキタ昔モスヌベビ

カツアクルデアラウニサ 世ノ中ハミタ昔ガフタビカルト云ハナ

吹風アラフヘキ。ナホのめくバ此一布ハトヒヨトゾム。^居

○吹テタル風ニ折テイヒツテル、物ナラ 此花一束ハヨケテ吹テクレトイタ

ニ サウニハナラヌモノナレヤ ドウモ散テモセウガナ

ナリ人モコナカのゆゑに 営めをきつる花とてアリテ。ハ^居

○け花ヲ駆^キニ折テ生^タテオイテ 事タナラバ見セウト四ウテ 待^タ人モ事モセヌニ

アヘ^ハ鶯ノオモニロウ^ハテヰタアツタラ花ノ枝ヲオハ折タワイ サテモラレイ

コトヲニタ^カ待^タ人ガ^タス^クラヰナラ 折ラチバヨカツタニ
こねあゆあふハ^ホセキ^カト^スム。

寛^ハは^ハき^カのあ^ハ合^ハら 花^アかき^カせ

ち^カか^カみ種^アげ^カにわ^カめ^カハ^カく^カい^カ候^カく^カる^カ。

○ヨニ春サク花ハイロ^アが何^テ花^テモ皆アダナ物^シド ソシモ誰^モ誰^モヒツ、

ノ花ハアダナト云^テトニ^スカギツ^タ者^ガアルゾ アダナ物^シヤ^クト^ハ誰^モヒツ、
ツ^ハスヤツ^ハリ賞^タスル^チヤ

飴材。後の花^モう。

孝^ハは^ハのち^カか^カて^ハし^カか^カじ^カら^カ花^アか^カう^カ加^カ。

○度^ノ色^ガイロ^カニ^スエル^ハ ま^カ度^ノ季^ビアル^中ナ^シ花^ノ色^ガ霞^ウツ^カ

タノカイノ

至承元方

かきもとし川をめらべとどやルとどゆあす山ハ花の色をもみ
○彦ノ立テアル春ノ山ノ山ハ遠ウ見エルケレモ カクツ遠ウモナイカニテ 吹

テクル風ハ花ノニ赤ヒガサスル

此うちめと。花はとふくもくかくば。

うつうつもとえてよも

みつね

花色もほらうめくへふぞうつりきる色ふらいでドノもくもく

○ウツロウタ花ヲ見レバ アーテニヤトスウ心ガ花ニシニヨシデ ユチノ心ニデガサ

花ノ色ニウツレタワイ ハヤウニ花ノ色ニウツメ心ヲ トウツ観召ミハタスニ

人が知ラウモビスホドニ 人が知テハアリアハウラニイフヂヤ

寺閑ナシト・詮材ニシト・

乱あくば

トムヘト・うど

うぐひをめうくまでごく小さて見えバ うぐひを小風ごめききみ

○喜ノナノ野ヘ來テ見レバ ドコノせモく ウツウメ花ヲ風が吹テチラスワイ
喜ガ惜シガツテナクノハダウリヂヤ 。お秋云ニのりのあくとくふくは、下の句へもそ ぬくべし。またそきバへきからざるし。

吹風をちかみてうぐひをハコレやハ花ふもくふゆもく

○喜ガオレガチカクヘ來テ恨メシサウニ鳴クガ ソチハ花ノチルが惜ウテ恨ニルラ

アノ吹テクル風ヲ恨シテナキサ オガアノ花ニチヨツトナリモキドモレタナラコソ
カレ恨ニヤウチレ カレハ手モフレハセヌゾヨ スヤコチが知タフテハナイマサテ

典侍治ふ教

ちよまちよかーとあふねうへばよ続きにあらへは。やも

○女テユク花ガ惜シテ泣ノデチラボニトール物ナラ ユキモ鶯ニオトロウカイ
喜ニオトラヌホド泣ウレド 士ボ泣テモ花ハドウモトニラヌワイノ

仁和の中將みやもし所めぬかあ合せもて あ
くらむふくらむきる 美原後花

花乃ちよかーとあふねうへばよ続きにあらへは。やも

○彦ノタツテアルアノ立田山ニ喜ノナク声ガスルが 花ノチルガツラウロヒテ

アノヤウニ鳴カイ

えぐひのねくばよや そき

あづまへあのがぬ風 ちよむをしかるふわせくらはるむ

○雪ガアノヤウニ花ノ枝ヲアチラヘユチスヘユツタヘバ 自身ノ羽ノアヲチノ風デ花
チルモノラ ソレラ誰ガ咎ミヒテアノヤウニ恨メレサウニレキリニハシユトヤラ 外ノ
物ガチエカナジノヤウニア 千秋云、こゝらハ物の数の多さを嘆美するが、ハシキリニ
みて、ふとさへ必もきりふきくとつあ勢う
とくしきでけぬまへまざへてまづべ。

花乃ちよかーとあふねうへばよ続きにあらへは。みつゆ

○雪ノ何アゼニモナイ鳴キゴトカナ 今年バカリチル花テハナイ イツ年トテ

モツビニ雪ノチクノデ花ガチエニアツタトエハナイニ

おーらむ

えぐひのねくばよや そき

あづまへあのがぬ風 ちよむをしかるふわせくらはるむ

○ダレカレサシヒアハセテ 馬ヲリナズテオツシテ ドニ見ニカウゾ 此第フル
京ハサゾヤ吉ノコレヤウニサヒタクト花ハチルニアラウヲ
ちゑ花をなかうゝみも月中にあさももと小づくむおうば
○モイチツテユクヲ何テ恨メニウルハツヅ ノチガ身トテモイツデモヒセニカウ
ニテアラウモノカイ 花ト日シヤウニホツケ死ニデユク物ヂヤ 花ハカリヲ早

ウモルトテ恨ミヤウヤウハナイ

小野 小町

花の色ハうつりかなれソブレハヨウトふゆうながめせーやふ
○エー花ノ色ハアレモウウツロウテニ、ウタワイナウ、一ノモスニサ ワニ
ツソユテ居ル男ニツイテ 心苦ナシガアツテ 行テトシヂヤンモナカツヌアヒタニ

長雨がフツタリナドニテ ツイ花ハアノヤウニマ

チハアシトハ、男女のかくらひもるをつぶ、男女は中らしのまこと。そし
テ中らしといつまへ。此集落のうちに、うれしかどり、うれしき。
さううつまう原民歌也ふ。まごき代もくみ。あどうとぐいもこれい。
仁和乃中らのみやちんぢううけぬふう合せんと
リ氣附ふよもる そせい

キニヨアシムシムふうう花あむちうまごくふねまてとくせむ
○散テテク花ヲヨシテト多ハドウソ糸ニヨル、物ナラヨイニ ソニテラソノ
チル花ヲツシイモ糸デツナイデチヌヤウニトメテオカウニ
トガシムジテシイホセイホシニユキアフタキニ
トガシムジテシイホセイホシニユキアフタキニ

ちくき原

144

あべさうちるみち山をばけもくねばそもくらむとらむ花ぞ春を

○一春ノコロ山ヲ越テクレバ ドウモ道モヨケラレヌホド 花かチツテ

クルワイ アノサ等ガサ

室乎拂ぬまきのまめう会の

まちめせに立るはるむとあねをおりあむそとハヤズヘぬ

○け春ノ空デ若菜ラツシウトヌフテホタモノヲ アチスヘコチスヘキリ一がウ花

デ ワカナラツム死ヘユク道ハニギテフミヨウテ ソデモナイ死ヘキタワイヨリヤ

山ちふゆうでくわりル^よト

ほほ人のいちくば祖ちゆ下のよハよと笑一怪ひゆべ。

かぢりてまめ、さうねる春の夏めうちる花ぞちりき原

○春花ノキル時^ニ山ニトシテ^ニ廻^タ夜ハソ花ヲ惜イ^トヌフニ^ニ方

美ノ宇ニモサ^シ花ノキル^バツカリラフルワイ

室乎拂ぬまきのまめう会の

吹風と音^ニあそ^ニなうりとばみ山^ニくと乃^ニをそす^ニや

○フキチラス風ト流^テユク谷川ノ水トガナイモノ^ニミ山^ノオクニカクレテ

候テアル花ヲバ^シヤウモノカイ ルラハズ^シイ^ニスヤ^シヤ川ノ水モ^シ花^ノ文

メ^シアヌニワライ^フバカリデモナイモノ^ダ

志かぢりかづくまくみどりめ花^ノアリ^{シテ}、^{シテ}

巖^ノ花乃^ニかゆめ主^トよりてかづり^シ小ト^シみ^シあ

○三薩一

。單九

うりまほ

信ふ遍照

トミムカニシテかづしむ人ふゆぢの花ちひよつとれよ枝ハキムラ色

○キヨツト立ヨツタバカリデ足モホメズニヨソニヌテイヌル人ニ ハヒツウテイナス

ナ花ノ花ヨ タトヒ枝ハ折ルトモ ドウゾヒツツウテトメヨ

おうすい葉のあらまきりきる波人乃しめうらどありて

アレムをよめる

みつね

おをぎみ鳴るふぢねと立ウタリモだざくのと人のよもじむ

○コチノキニ咲テアル若ノ花ヲ アヤウニ人ガヒツカレシテ ドモ尼ステイ

ナレヌヤウニヒタスラル若 の ドウ云フヤラ エイをテモナニ

歌一うど

とも人ちうば

いよもかもはきあわすレシモラガおち小嶋のまにの山嶋のむ

○多ギダノ小嶋ノ嶋ノ山嶋ノ花ハ ケフコノゴロカナ ルミニサイタアラウ
御白毛ハ二つともややこめ舞キ。今うし。今もとくふるうべ。
も風も色もやもと色ももうおふあまへあつゝ山嶋きぬ花

○此山嶋ノ花ワニ 春あニヌレテ一入サツタ色モドウモイヌニ 色分リデ
ナニ 香ニテガヌニヌテハ別シテシホラニウニホウ

美玉。もの方へもかくより。おのゆもひも。もそれぞ。すまうあ。

山嶋きぬやおとむに花ぐむくうゑりひくがこくいこおくふ
○山嶋パワツタヌ物ギヤ コニナラサカヌガヨイ 花ガサイタラヌニホウト
四フテ極テ本カキツタデアラウニ まほ方がコヨヒニエモセヌニ 嘆テモ何

せニモナイフヂヤ 嘴ラクラ弁ナラ モハ方ガ見ニニユルヤウニニテクレヤ ソニテス
喫多ヒガルツテワニタツト云モノヂヤニ

意おうなり

トの川乃ほよりふ山がきの嘆ききはく

ほくらき

吉野川ノ岸ナ山吹ラヌハ 風が吹テチホガソ風デ川ノ水が空クニ

ヨツテ 底ヘウリタ穀ニテガホツタワイ

歌トシラミ

トみ人トシラミ

かゝる歌をすむ山吹もるさと花の聲ふらをま。ゆゑを

○一叶手ノ山吹がヤモウ若テニウタワイ ア残念ナコトラレタ

ソソット早ウ 花ノサカリノ咲キニキヤウニホテルヤウデアツタモノ
ひあひの人の歌トシムラズモキモロトケテテ

おれうと歌しよせる そまい

田あざむきお山吹テアツラムとて三三五七之を強癡トシテ

○ソニデラソユヘイクト云テ定ラタ旅デハ ヨソニトルノハネ物チヤガ サライ^四定
ラタ旅デハナレニ 心ノアラタドウレ春ノ山ヘツガツテイテ 「日日ノシル」^四
アツニア^四イキガリニト^五ツテミタイモノヂヤ ソニテハオモシロイ旅麻デア

ラウ
サヌアラタモシテムトカムモ

おれうと歌しよめる みづ

竹づとカラムシムラムシトカム年月めつたがおもくもあわやゆか

○古うニ梓弓春トツケテヨニアガニコトニ月日ガ早ウタツテ 矢ヲイ
ルヤウニスバレ、春ニナツテカラヘダナシノモナニ サアモ早ウタツタヲ^フク

ア一月とよもハナニハ年ナニめ善のうねとばくナニベー・ま乃

善のあきてハ此泊ナニふかきどる。

やましらすらめナニアヤマナニおおりま波ナニよも

「ゆき」

ちにらむる花ナニおうとばうとひをももてハあうくねりぬナニう

○ナニボ惜ニテ唱テモナニ花ハミナ者テニウテ 唱ナニテトル花ハナケレバニ
デナニセニテイフギヤトヨナニ 善モニヒハ 唱ナニトモナウナツキナニアラウサウアリナニ

ソナフニモレルソニテスレウナカヌギヤーデ

鉢林ナニ一

やうひのつどよりかナニをあんすすみ山川ナニ花の

おぐ枝ナニくわくわナニ ゆうやふナニ

此人ナニもナニあ始ナニてナニとバ姓ナニをナニぐべき例ナニうナニ姓ナニきナニい

クナニ又ナニすナニあナニげ名ナニのナニとナニせナニハナニがナニ。

花ナニきナニもナニけナニくナニとナニばナニくナニもナニおナニくナニりナニかナニとナニ

○是ナニノ故ナニテ流ナニレル川ナニキニソウナニテナニくナニミナカミナニ方ナニへナニる子ナニテキナニアナニレバ

山ナニハモウ花ナニチナニツナニテナニウナニ ハヤ春モナイヤウニナツタタキ

喜ナニ開ナニ惜ナニとナニよめナニ わくナニ

きナニ一ナニじナニもナニおナニくナニかナニくナニとナニそナニへナニば

○春ラ惜ムケレモウシセニトリハセヌ 春モウタツテイスル道ナニへ藤ナニホチヒ名

○毛龍一

○五十二

バトーラヌズヂヤ

鹿ハシケの旅かひすし 無カハシテシモカニ

ミハシシキモモシロアリモアシテテラヌシシイナシモミヘテイ

アソサシシムカニシテモカニシテモカニシテモカニシテモカニシテモ

寛あはぬきみのあああああああああああ

季ももむぎなげやうぐいと一ニセアニモビシガムキモチハ

○春ハ一年ノ内ニイク度モホレバキツノフヂヤガサウハナラズ四
トナリ庄ホレバヨチレビニキトモルモカイタツタ一度ナラズヘナイ春ヂヤニ

クニテユクハサクノコリホ奈イフヂヤ タヒスハズイゴン絶ゼ鳴テ恨ミヨヤ

イイ五三モ鳴キドコロヂヤ

やよしひ乃はこうかわけ日花つももりかつりきる女びとを

足すよもね

みつね

アドムベキぬくはうくかもうねくもちく等ごふしもくふくうう

○アノ花ガアリ惜サニ一本くチツテユク花ゴトニコチノ心ガツイテイクワ

アノ女ニサテモアホラシイフカナツテイタテトメラレウ物ハナキニ

チヌミムヨウ

やよしひのほごからせ日あのすりうるめぢ花をくまで

人立つりま

ねりうるめの外だ

ぬきつゞきしてをりほる年がうちふきひくもうじにとどこ思へぞ

○此後ノ花ハドウソシモトヘ六目ニカチウト在ジテ 今日ノけふニヌケサ

ムリニ折リシタ春ハダイクカモアルデハアルイモウ當年ノ内六タツナチ

○春後一

○五十三

一日ナラニテハ春ハナイトモアズル左三サ

法説下句ナキを候む。

亭子院、う金ノトモナキを候む。

ミナシ

ラフのミノトモナシルニテアリムナリムナリムナリムナリムナリ

○春ヲモウ今日カリヤトハ晏ヌ時デサヘ
花トハ立テイスルノガ何シトモナイ

カサアソビデ艾菫ノトハ立サリトモナイニ
テニテケフギリノ春ギヤモノ

ラヤカベミ一の色ナキをウニ

古事記傳

本居翁著

全四十五冊

此書ハ本居先生壯年の比うりこころより生涯の學力が成らうて皇國才一乃書
ラヨリヤクミノツノはまひくうふのにて千年餘もうむきする神の手書き太道成
世ふじうきくまトキ書かでしやへ今お接群すら見識をのく古來の證の非常
ノレ成ルハアーテ滋小赤者有の大後湯の書ゆり矣同縦三毛ハ要用もしく成早く
抜一せんより大意をとりて走りを走り——やうと——金室の書ゆり

神代正譜

本居翁著

全三冊

神書をより古書成らうもまづ古言をよくちでハ事ヨリ一作ノアーユ
古事記の神代をかか書ふすてもく古言の要をもく見え事のにまほひゆ
我皇國のいづく事紀を口あきちらんとあくまわ——あり

出雲神壽後釋

本居翁著

全二冊

出雲國造の神壽の祝詞ハある中やくもく書き綴りて妙多幸のあくを今まで世人
の人々ももくとあるがうちとく事多うとよ聞翁の在すやうを教會へくちくわ書

